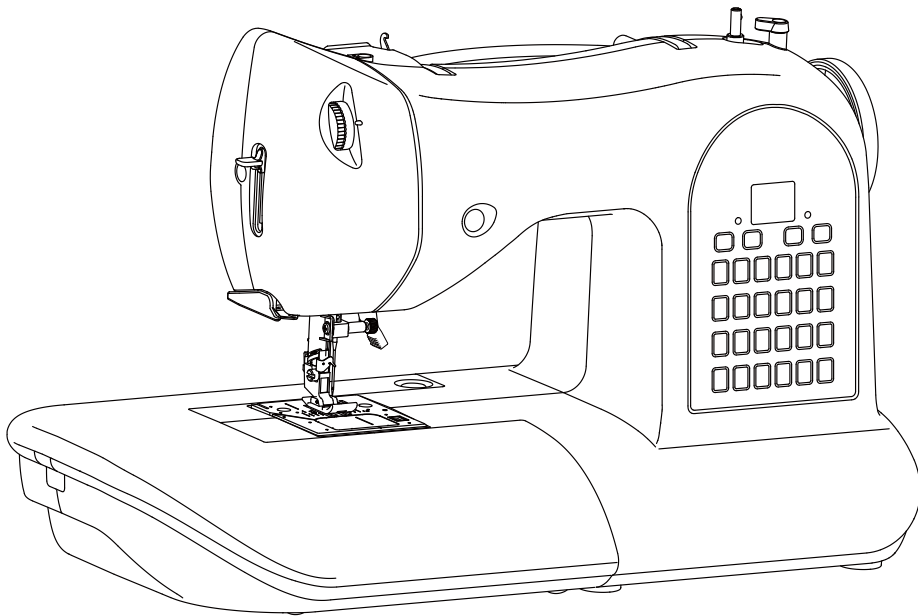


SINGER®



型式：160

- ★ ご使用前にこの『取扱説明書』を十分にお読みください。
- ★ この『取扱説明書』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

取扱説明書

⚠️ 注意 感電、火災、けがの原因となります

 禁止 ミシンには正規の部品（ボビン・針等）をご使用ください。	 注意 ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの高容量の電気製品のご使用はお控えください。 ミシンの動作が不正確になる場合があります。
 注意 最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始めてください。	 注意 お子様のご使用になる時やお子様の近くで使用される時は、特に安全に注意してください。
 注意 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。	 禁止 以下のことをする時は、電源スイッチを切ってください。 ・針を交換する時 ・上糸、下糸をセットする時 ・送り歯とかまの掃除をする時
 禁止 曲がった針はご使用にならないでください。	 禁止 ミシンを動かす時は、かまカバーを閉じてください。
 禁止 ぬう時は布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。	 注意 業務用としてのご使用はお控えください。 過負荷による故障の原因になります。
 禁止 お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。 変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。	 禁止 ミシンに以下の異常がある時はすみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店または販売元で点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しない時 ・水にぬれた時 ・落下などにより破損した時 ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなった時 ・異常な音やにおいがする時
 注意 最初にミシンを使用するときは、押えの下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。	
 注意 針の下に指をいれないでください。 けがをするおそれがあります。	 注意 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は5～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、本体や電源コードの皮膜が溶けて火災・感電の原因となります。

「自動停止装置」について

- ◆ このミシンは、誤った操作などをしたとき、自動的に運転を止める安全装置がついています。
- ◆ たとえば、縫製中に糸がかまにくい込んだりしたようなとき、安全装置がそれを感じ、3秒以内に自動的に電流を遮断し、モーターを止めます。
- ◆ モーターが止まったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。
- ◆ かまに巻きついた糸を取り除く場合はハサミで糸を切ってください。

※ 製品のデザイン、仕様は改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

も く じ

1. ご使用になる前に

各部の名称	3
付属品	4
電源のつながりかた	5
スタート	5
糸ごまのセット	6
押え上げ	6
ドロップフィードレバー	6
フリーアーム (筒ぬい)	6
下糸の巻きかた	7
ボビンのセット	8
上糸のかけかた	9
自動糸通し器の使いかた	10
針と糸と布の使い方	11
針のとりかえかた	11
上糸調子のとりかた	12
押えの取りかえ方	12
操作パネルの機能	13
操作スイッチ	14

2. さあぬってみましょう

ぬい目長さとぬい目幅早見表	15 ~ 16
直線ぬい	17 ~ 18
手ぬい風キルトステッチ	18
ジグザグぬい	19
まつりぬい・伸縮まつりぬい	20
点線ジグザグぬい	20
スーパーぬい (ストレッチステッチ)	21 ~ 23

直線伸縮ぬい / ジグザグ伸縮ぬい / スモッキングぬい /
オーバーロックぬい / フェザーぬい / ビンステッチ /
ブランケットぬい / ボックスぬい / バインリーフぬい /
はぎ合せぬい

飾りぬい	23
飾りぬいのアイデア	
連続模様	23
ボタン付け	23
ボタンホール (ボタン穴かがり)	24 ~ 25

3. ミシンのお手入れ

送り歯とかまの掃除	26
-----------	----

4. その他の情報

サテン押え	27
直線ぬいの針位置	27

5. ミシンの調子が悪いとき、 次の原因を確かめましょう

	28
液晶表示メッセージ	29
システムエラー	29

6. 修理・保証について

修理サービス要領	30
お問い合わせまたはご相談先 (純正部品の購入方法)	31
保証書	33

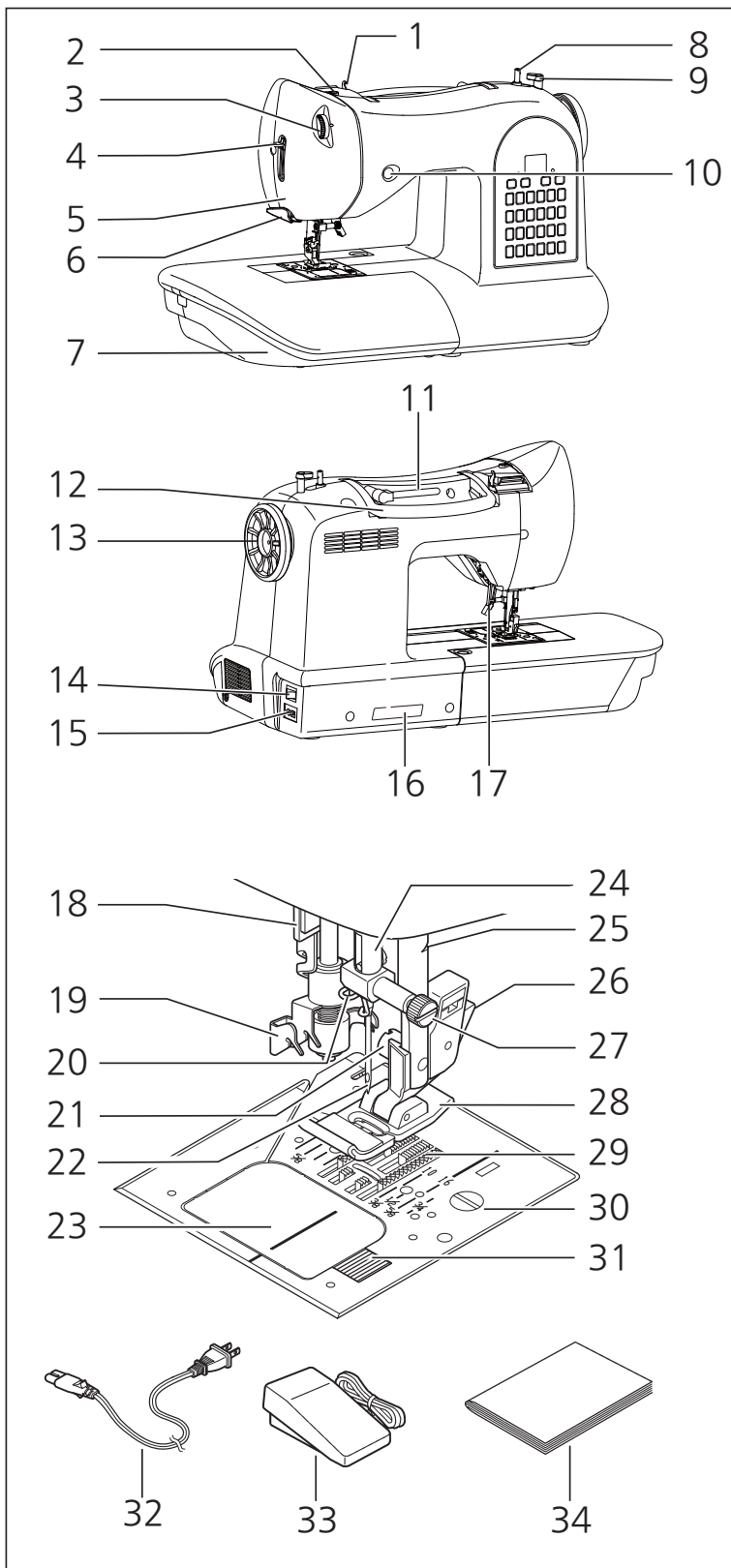
ミシンの仕様

本体寸法	: 幅 54.5 × 奥行き 26 × 高さ 33 (cm)
本体重量	: 8.4 kg
定格電圧	: 100 V AC
定格消費電力	: 75 W
定格周波数	: 50 / 60 Hz

1. ご使用になる前に ……

各部の名称

1. 糸案内
2. 下糸巻き案内
3. 上糸調子ダイヤル
4. 糸通しレバー
5. 面 板
6. 糸切り
7. 補助テーブル (付属品入れ)
8. 下糸巻き軸
9. 下糸巻き押え
10. 返しぬいボタン
11. 糸立て棒
12. ハンドル
13. プーリー
14. 電源スイッチ
(ライトスイッチ兼用)
15. 電源コード差込口
16. 機番プレート
17. 押え上げレバー
18. ボタンホールレバー
19. 糸通しガイド
20. 針棒糸案内
21. 押え止めネジ
22. 針
23. かまカバー
24. 針 棒
25. 糸切り
26. 押え解除ボタン
27. 針止めネジ
28. 押え
29. 送り歯
30. 針 板
31. かまカバー開放レバー
32. 電源コード
33. フットコントローラー
34. 説明書



注 意

最初にミシンを使用するときは、押えの下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。

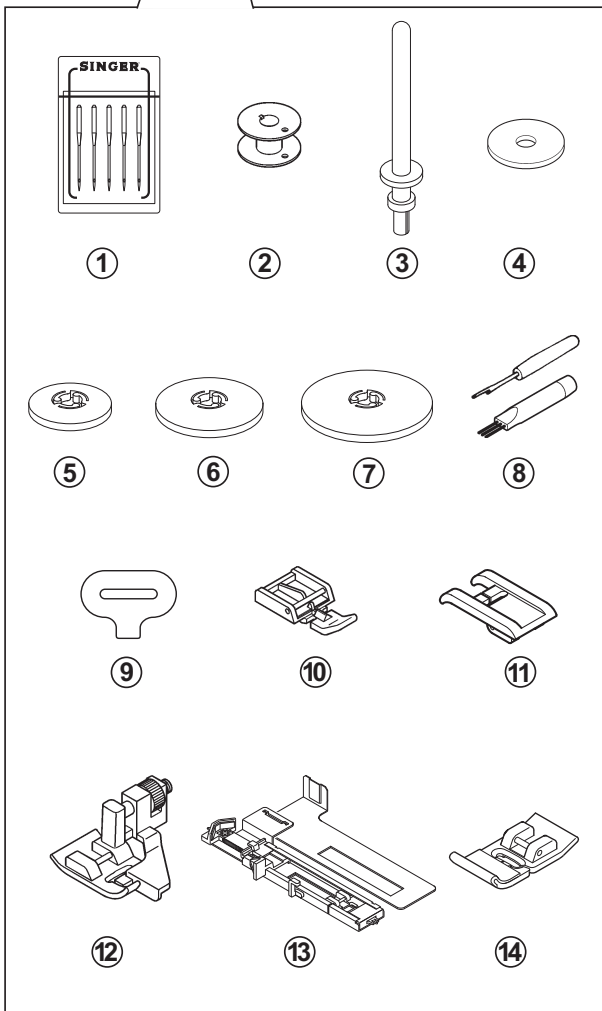
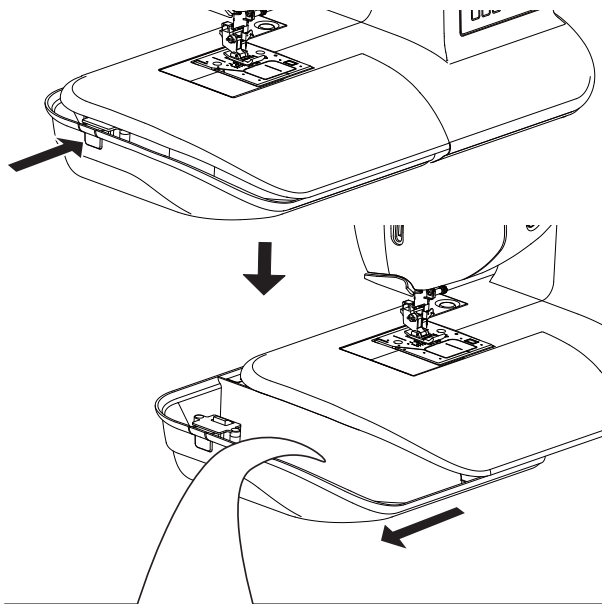


注 意

ほこりや油などでぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対使用しないでください。

付属品

- ① ミシン針
- ② ボビン
- ③ 補助糸立て棒
- ④ 糸ごまクッション
- ⑤ 糸ごま押え (小)
- ⑥ 糸ごま押え (中)
- ⑦ 糸ごま押え (大)
- ⑧ ブラシ付きシームリッパー
- ⑨ 針板用ネジ回し
- ⑩ ファスナー押え
- ⑪ サテン押え
- ⑫ まつりぬい押え
- ⑬ ボタンホール押え
- ⑭ 標準押え



電源のつながりかた



注 意

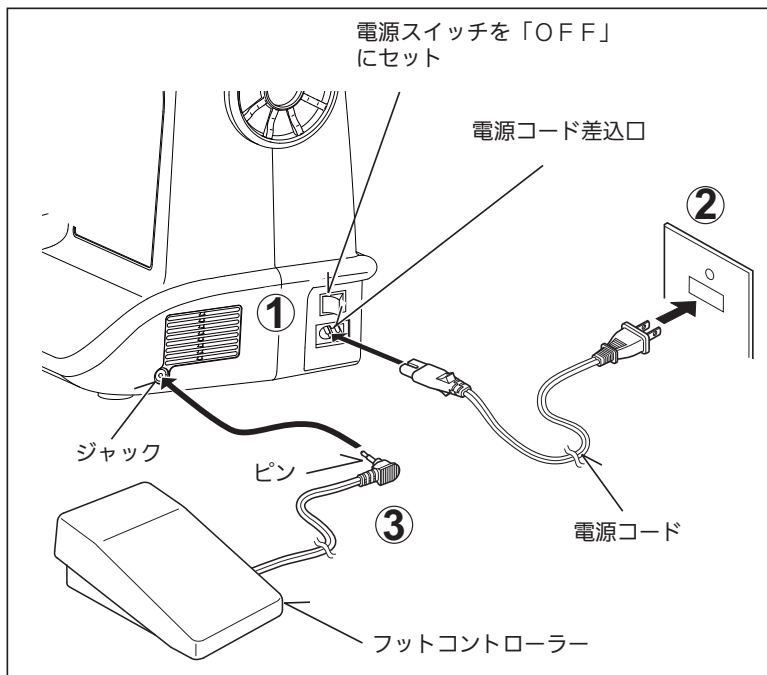
ミシンを使用しない時は、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。



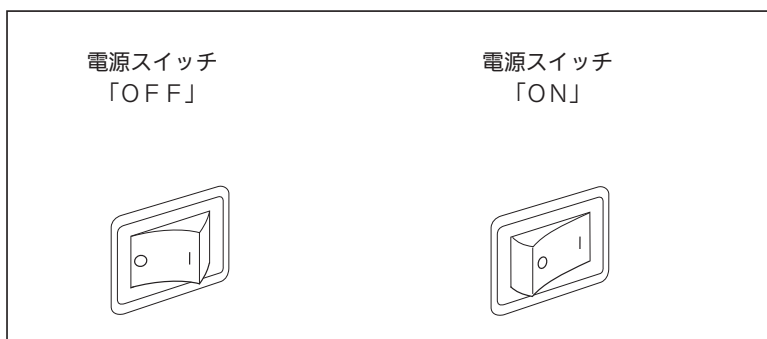
注 意

電源コードは必ず付属の当社指定のものをご使用ください。

- 電源スイッチを「OFF」にしてください。
- 電源コードのプラグを①、②の順に差し込みます。
- フットコントローラーのピン③をミシンのジャックに差し込みます。この時、必ず一番奥まで確実に差し込んでください。

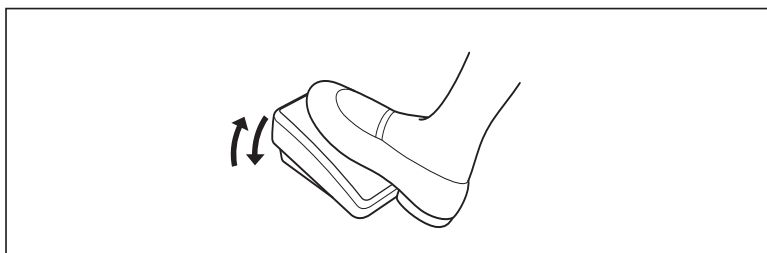


- 電源スイッチを「ON」にして電源をいれます。
(同時に照明ランプが点灯します。)



スタート

- 電源スイッチを「ON」にしてフットコントローラーを深く踏むと、ミシンの回転は速くなります。最初は軽く踏んで遅い速度でぬい始めてください。

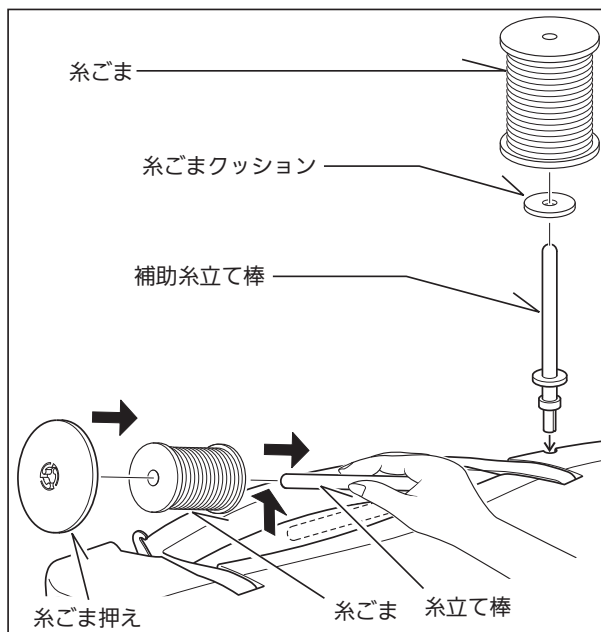


注 意

フットコントローラーは必ず当社指定のものをご使用ください。また、フットコントローラーに他の接続コードをつなぐなど、コードを延長して使用しないでください。

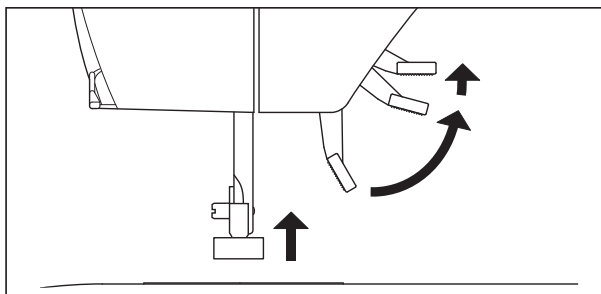
糸ごまのセット

- 糸立て棒に糸ごまを入れ、糸ごま押えで押えます。
糸ごまのサイズより少し大きめの糸ごま押えを使用します。
予備の糸を使用するときには、補助糸立て棒と糸ごまクッションを使用します。



押え上げ

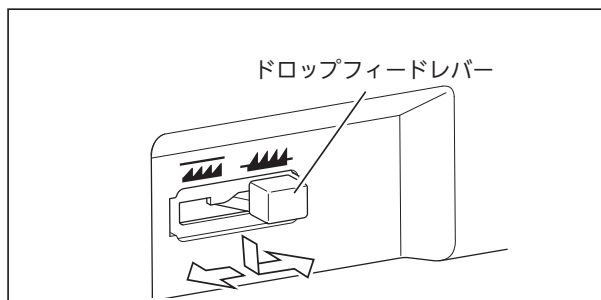
- めうときは、押え上げを下げておきます。
- 押え上げは2段階です。1段階目は手を離しても押え上げは保持されます。2段階目は更に上へ手で支えながら持ち上げます。



ドロップフィードレバー

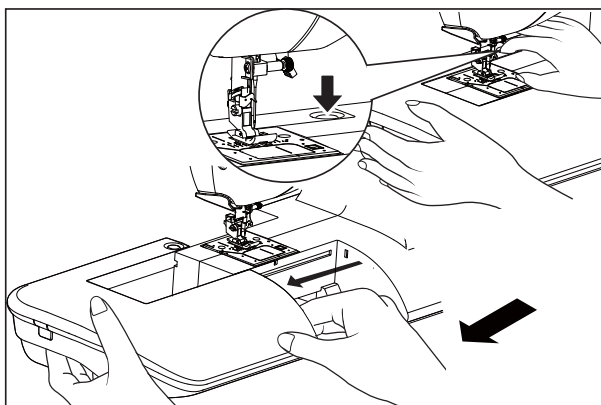
- このレバーで送り歯を下げると、手で自由に布を送れますので、つくろいぬい、自由刺しゅうに便利です。ドロップフィードレバーは、補助テーブルを外して背面側にあります。

注：レバーを右に押してプーリーを回すと送り歯が上がってきます。



フリーアーム（筒ぬい）

- このミシンは、補助テーブルを左に引っ張って外すとフリーアーム型になります。補助テーブルをもとに戻すときは、テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、所定の位置に差し込みます。



下系の巻きかた



注意

使用するボビンについて

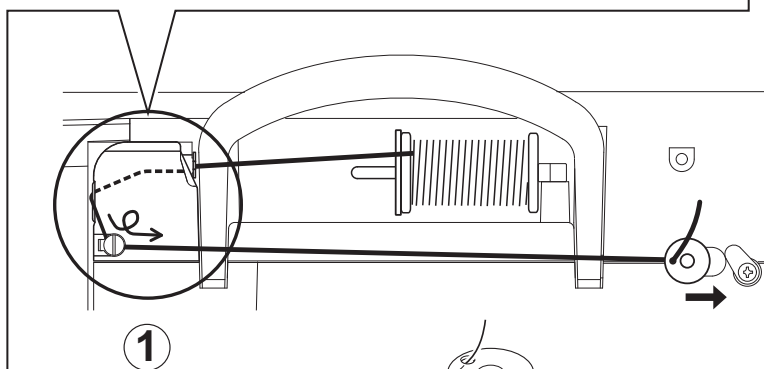
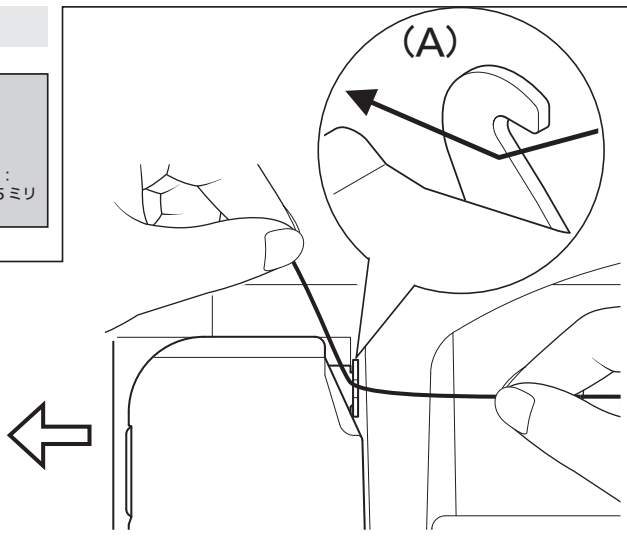
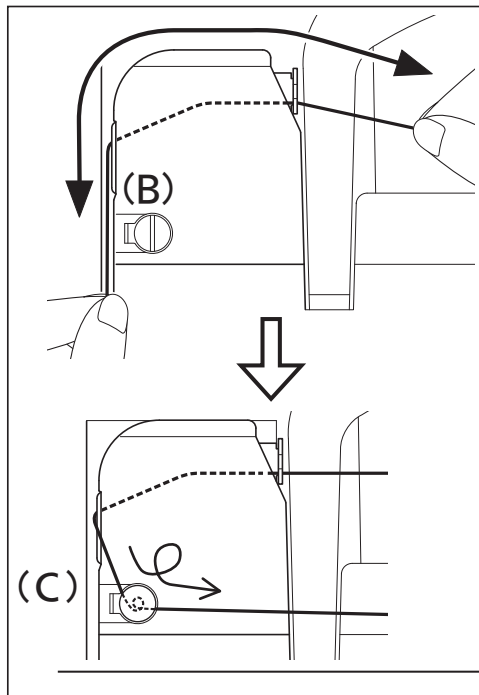
右記の寸法のプラスチック製ボビンを使用してください。
金属製ボビンは使用しないでください

直径：20.5 ミリ



高さ：11.5 ミリ

材質：プラスチック



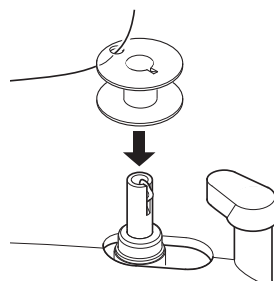
※ 下糸を巻く前に、押え上げを下げてください。

1. 糸立て棒に糸ごまを入れ、糸ごま押えで押えます。

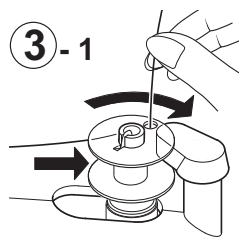
図のように、糸案内 (A) にかかけ、糸案内 (B) から下糸巻き案内 (C) にかかけます。

2. ②図のようにボビンの穴に内から外へ糸を通し、ボビンのみぞと下糸巻き軸のバネの位置を合わせ、軸にセットします。
3. 糸の端を持ち、ボビンを矢印の方向に押します。電源を入れフットコントローラーを踏み込みスタートします。少し巻けたら、フットコントローラーを離し、ミシンを止め巻き初めの糸を穴の根元から切ります。再度フットコントローラーを踏み込み糸を巻きます。
4. 必要量巻き終わりますとフットコントローラーを離し、ミシンを止め糸を切りボビンをはずします。

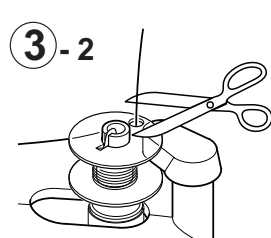
②



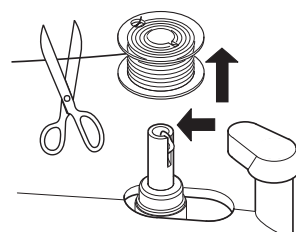
③-1



③-2



④



ボビンのセット

1. プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

2. かまカバー開放レバーを右に押して、かまカバーを外します。

3. 糸が左巻きになる方向にボビンを入れます。



注意

ボビンから糸の出る方向が正しくないと、針折れや糸調子不良の原因となりますので、必ず図のように正しい向きにセットしてください。

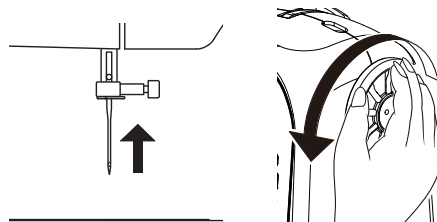
4. ボビンを指で押さえながら、糸をAからBにかけてるようにして向こう側に出します。

5. 針板の糸通しみぞに沿って糸を通し、手前に引いて、カッターで糸を切ります。

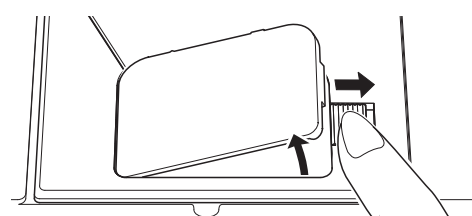
注：下糸を引き上げることなくぬい始められます。

6. かまカバーを取り付けます。

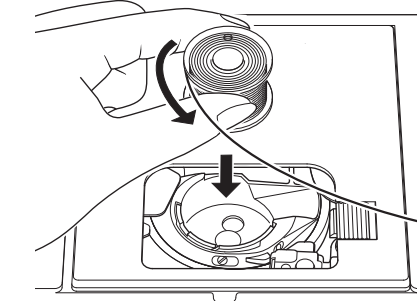
①



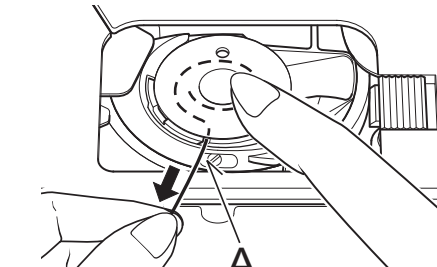
②



③

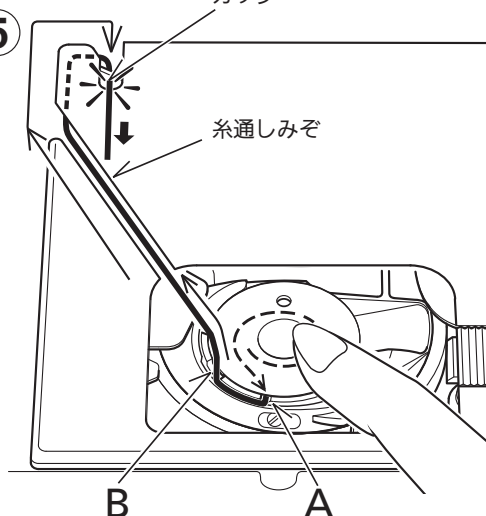


④



カッター

⑤

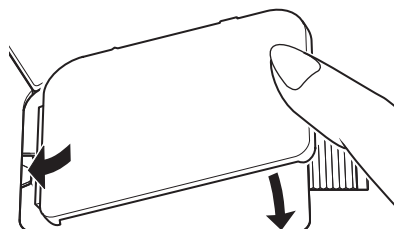


糸通しみぞ

B

A

⑥

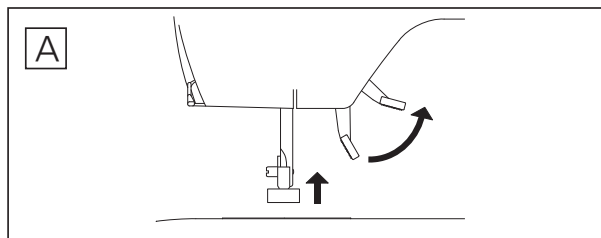


上糸のかけかた

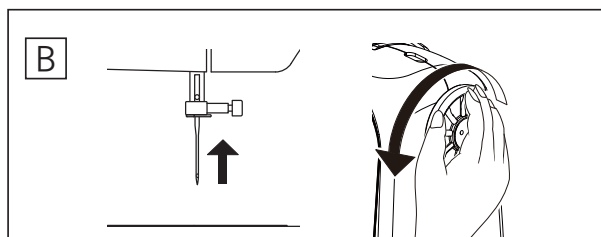
A. 上糸を掛ける前に、必ず押え上げを上げます。



押え上げを上げないで上糸をかけると、内蔵されている糸調子皿に糸が通らない為、糸調子が取れず、正常なぬいが出来ません。

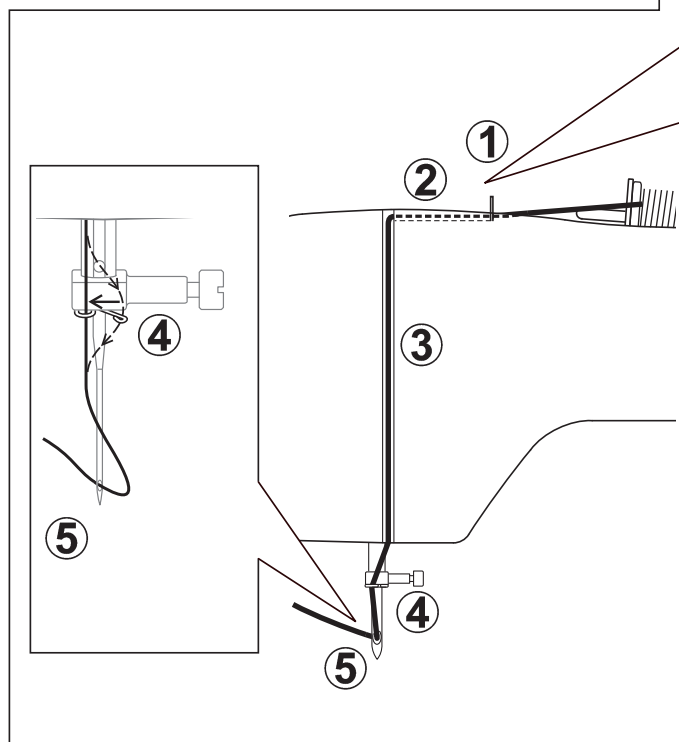
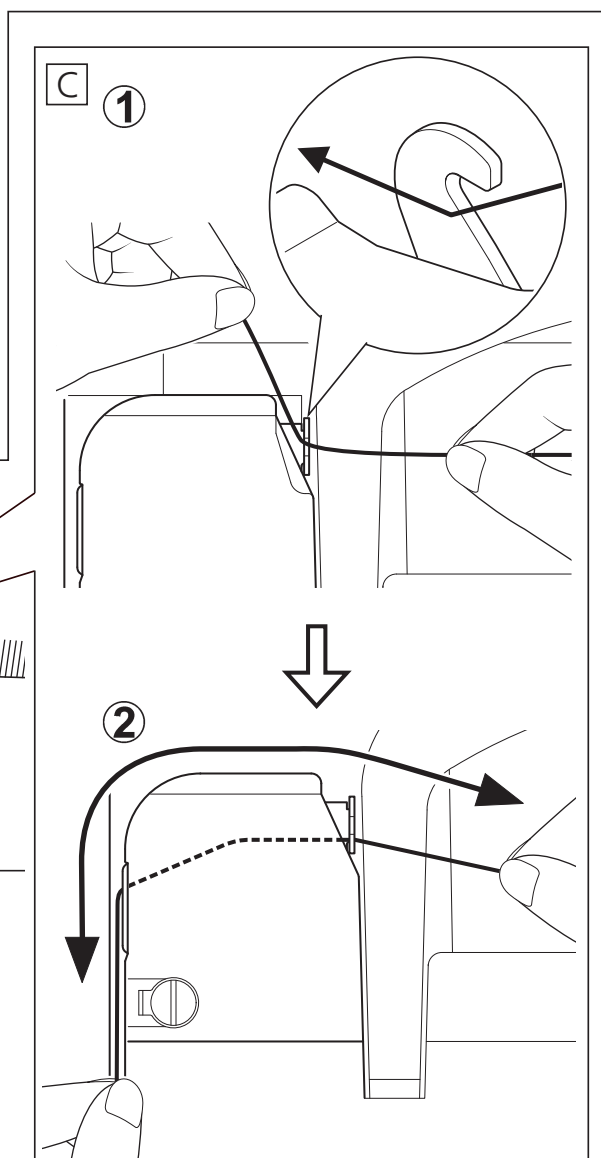


B. プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。



C. 図の順番に糸を掛けます。

- 図のように、糸案内①に掛け②から③の溝に沿って糸を引き下げます。
- 図のように④の針棒糸案内に掛けます。
- 針穴⑤に前から後ろへ糸を通します。



自動糸通し器の使いかた

* 糸通しの前に押え上げを上げ、針を一番上にします。

1. 右手で糸を保持し、左手で糸を張りぎみにしながら
みぞに沿って糸を通します。針棒糸案内に糸を掛け、
10 cm以上手前に引き出します。

2. 糸通しガイド（AとB）に糸を掛けます。

3. 糸をゆっくりと、糸切りに掛け、切ってください。

* 糸を早いスピードで切ると、糸通し後、針穴から糸が外れる場合があります。

4. 糸通しガイドが回転し、止まるまで、糸通しレバーを
押し下げます。

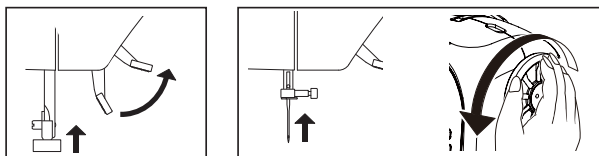
* 糸通しレバーを下げる場合、レバーの根元を指で押さえるようにしてく
ださい。
* 糸通しガイドが生地等に触れないようにしてください。

5. 糸通しレバーを離すと針に自動的に糸が掛かります。

* 糸通しガイドが元の位置に戻らない場合は糸通しガイドを元に戻る方向
に軽く触ってください。

6. 輪になった糸を向こう側に引き出してください。

* 糸が正しく掛からなかった場合は、手順 1 からやり直してください。



注意 1 :

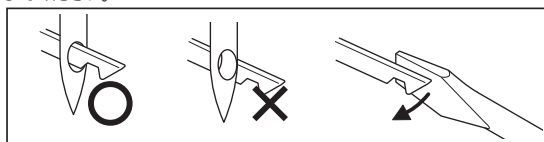
* 自動糸通し器を使用の際は、糸通しをスムーズに行えるように、直線ぬい
（中基線）にセットしておくことをお勧めします。
* 細い針に太い糸を使うと糸通しが出来ません。
* ミシンが動いているときは糸通しレバーを下げないでください。故障だけ
でなく、針が折れ、けがの原因になります。

注意 2 :

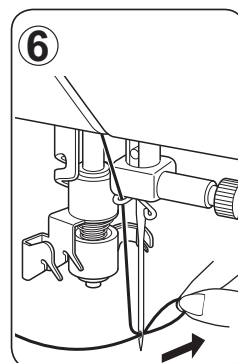
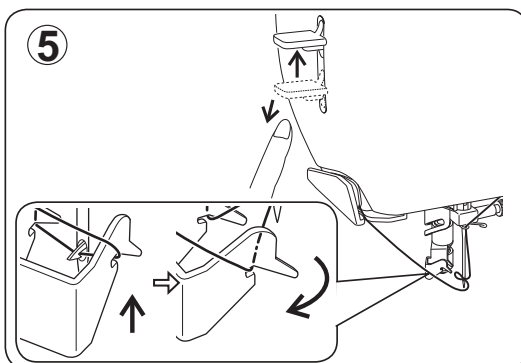
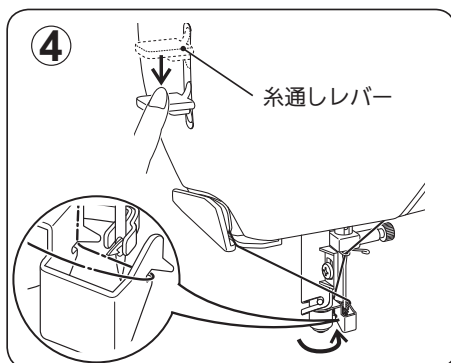
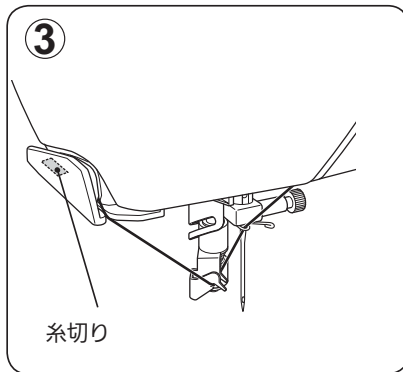
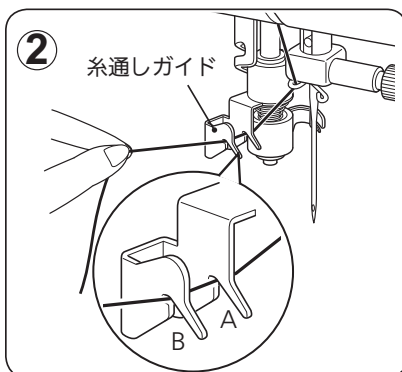
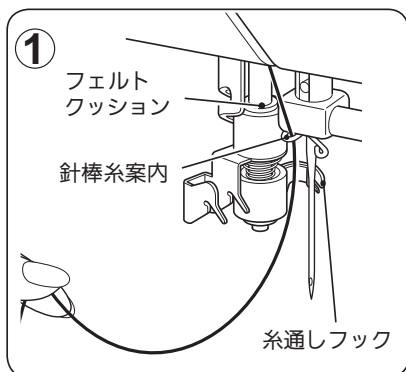
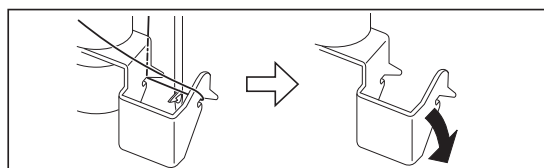
この糸通し器は #14 番針が標準とされておりますので、それより細い針
や糸の種類により針に糸が通りにくいことがあります。その場合は、針棒
糸案内に糸を掛けた後、手で針に糸を通してください。

お役立ち情報

* 長期間ミシンを使用していない場合の使用時はフェルトクッションにミシン
油を 1 滴差してください。
* 糸通しフックが針穴から離れた際は、小さなねじ回しでフックの位置を調節
してください。



* 糸通しフックに糸が引っかからない場合は、糸ガイドをほんの少し曲げて上
下の位置を調整してください。



針と糸と布の使い方

※ 家庭用ミシン針を使用してください。

※ 上糸と下糸は通常同じ種類のものを使います。

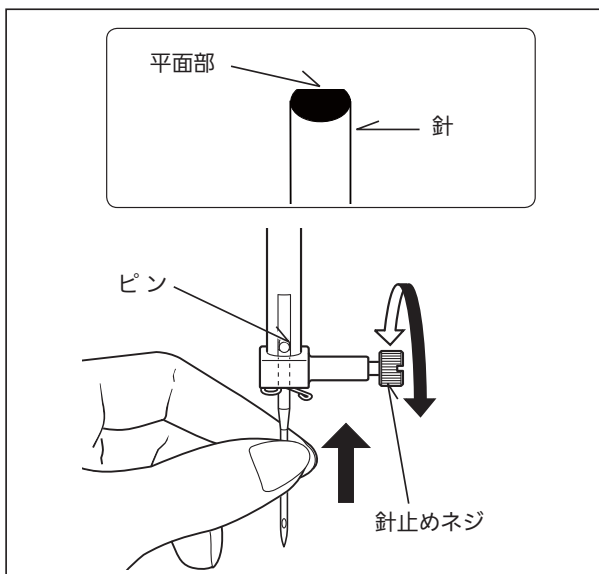
※ 下表を参考にして、布地に適した針と糸を使用してください。

※ 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。

布 地	糸 (番手が大きいほど細くなります)	針 (番手が大きいほど太くなります)
薄物地 ：合織布（アセテート）、絹地など アドバイス：ぬいしわを防止するにはぬい目ピッチ 2～3ミリをおすすめします。	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャッペスパン）、 絹糸 60～90番	9～11番
普通地 ：木綿地（ブロード・キャラコ・ シーティングなど）、 毛織物（フラノ・フェルトなど）、 合織布（ギャバジンなど）、絹地 アドバイス：穴のあいているレースをぬう場合、 布の下に紙を敷いてください。	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャッペスパン）、 絹糸 50～60番	11～14番
厚物地 ：木綿地（デニム・タオルなど）、 毛織物（ツイード・フェルトなど）、 合織布（レーヨンなどのカーテン地）	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャッペスパン）、 絹糸 30～60番 アドバイス：30番糸を使用される場合、16番針とします。 30番以上の太い糸（例えば、20番などの糸）の使用は控えてください。	14～16番
伸縮地 ：ジャージー、トリコット、メリヤス、 ニット地などの伸縮性のある布地	カタン糸（木綿糸）、化繊糸 （シャッペスパン）、絹糸 50～90番	11～14番 アドバイス：ニット針の使用をおすすめ します。
＊ ナイロン透明糸を使用される場合、糸の太さ / 布の種類に関係なく、針の太さは14番～16番をおすすめ します。 アドバイス：針は太め、上糸調子は弱めにし、下糸は少なめに巻いてください。		

針のとりかえかた

1. プーリーを手前に回し、針棒を最上点にあげます。
2. 針止めネジを付属のネジ回しでゆるめ、針を外します。
3. 新しい針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差し込みます。
4. 付属のネジ回しで針止めネジをかたくしめます。



針を取りかえるときは、必ず電源スイッチを切ってください。

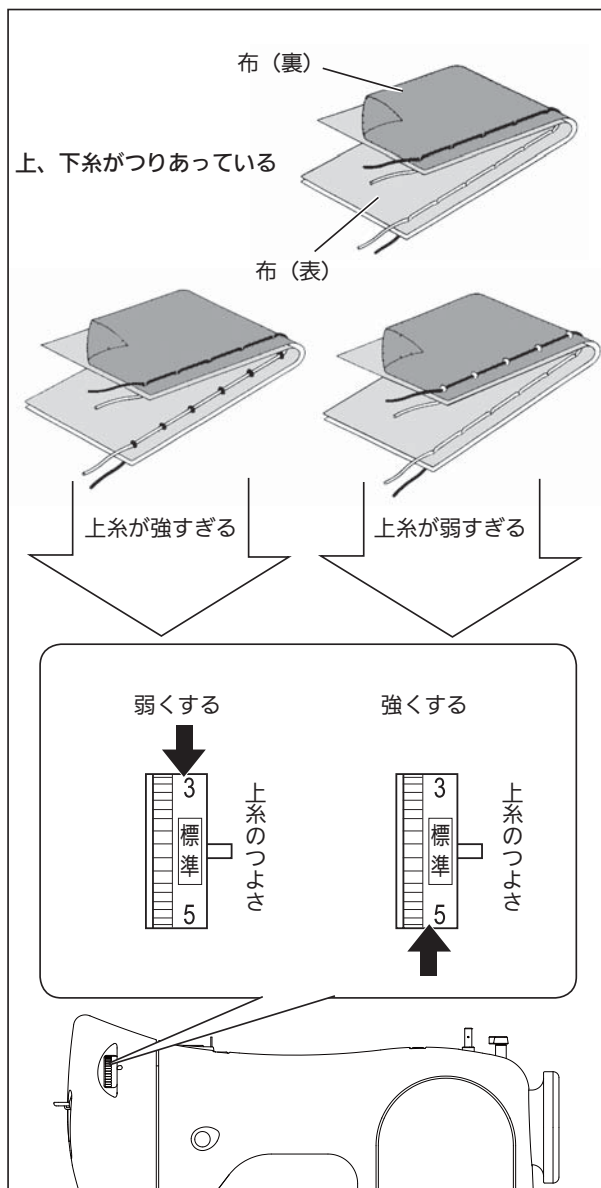
上糸調子のとりかた

- 直線ぬいの場合、上糸は布表側と布裏側で下糸とバランスよくからみあう状態に調整します。
通常の場合は、「標準」に合わせてください。

- 上糸が強くて、布の上に下糸が出るときは、再度ボビンが正しくセット（8 P 参照）されているか確認して下さい。

正しくセットされている場合は、上糸調節ダイヤルを小さい数字のほうへ回して調節してください。

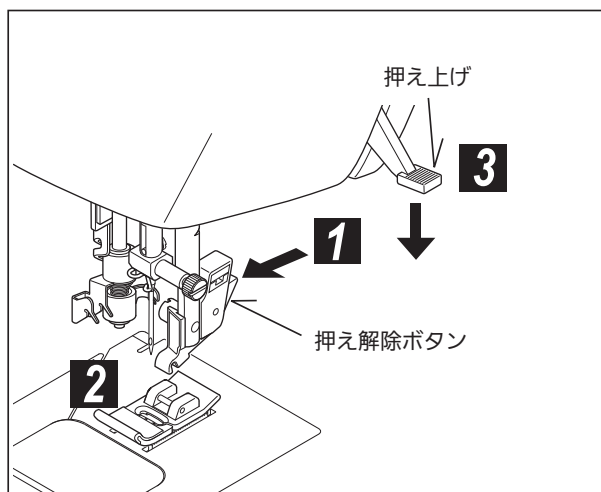
- 上糸が弱くて、布の裏に上糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回して上糸調子を強めます。



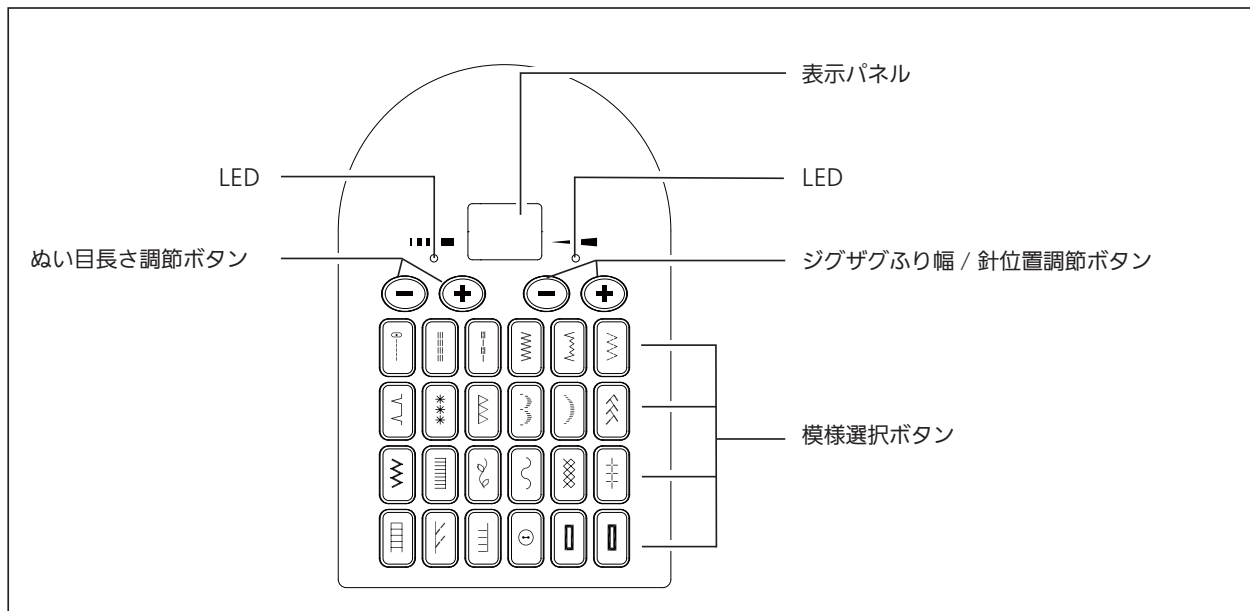
押えの取りかえ方

※ 押えと針を上げます。

1. 押え解除ボタンを矢印の方向へ押すと、押えが外れます。
2. 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。
3. 押え上げを下げると押えがセットされます。
入りにくい時は、押え解除ボタンを押すと入ります。



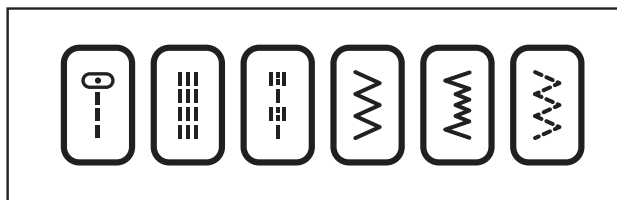
操作パネルの機能



■ 模様選択ボタン

電源を入ると直線ぬいのボタンが点灯します。この状態で直線ぬいをすることができます。

他の模様をぬうには、希望の模様ぬいボタンを押してください。



■ ぬい目長さ及びジグザグふり幅・針位置調節ボタン

ミシンはぬい目長さやジグザグふり幅・直線針位置が自動設定されており、模様を選択すると、あらかじめ自動設定されたぬい目長さ、ジグザグふり幅または直線ぬいの針位置でぬうことができます。

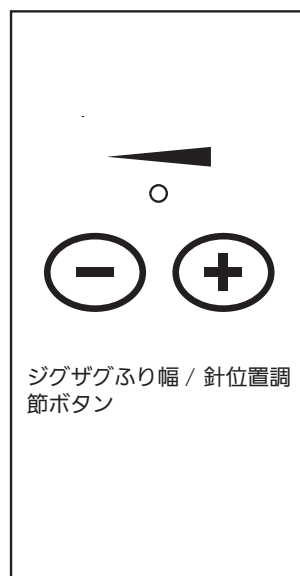
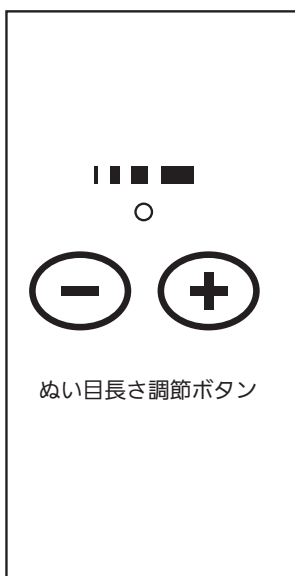
表示パネルには、ぬい目長さ調節ボタンを押すとぬい目長さが、ジグザグ振り幅 / 針位置調節ボタンを押すとジグザグ振り幅 / 針位置が表示されます。また、押したボタンの上の LED が点灯します。

ぬい目長さやジグザグ振り幅 / 針位置が自動設定値のときは LED は赤色に点灯します。

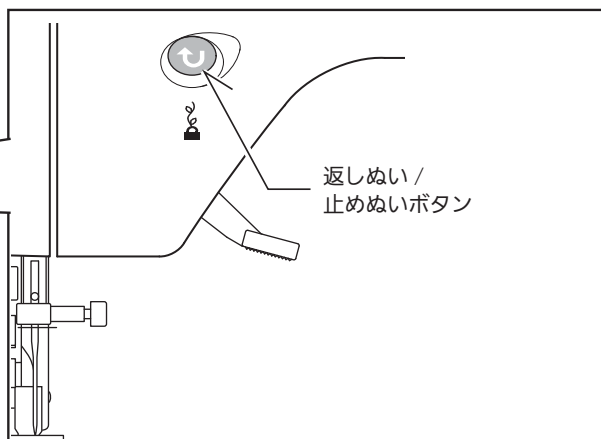
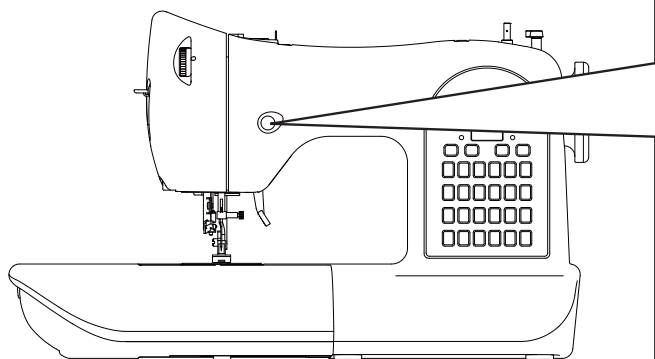
ぬい目長さやジグザグ振り幅 / 針位置が手動設定値のときは LED は黄色に点灯します。
各模様における設定は、電源を切るまで保持されます。

注：直線ぬいの際の針位置の手動設定については「その他の情報」のページにも記載しています。

注：模様によって手動設定位置の数が多いものや少ないものがあります。

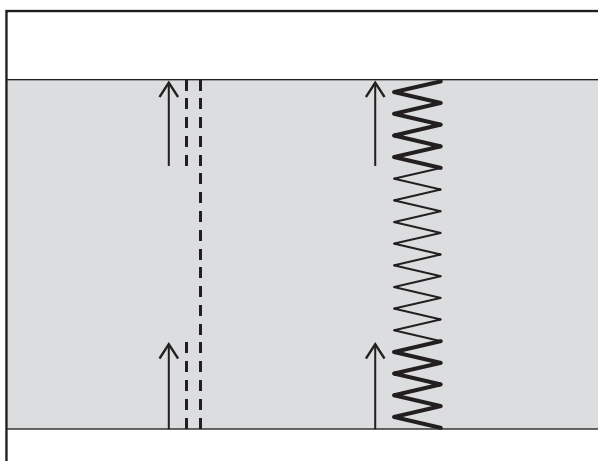


操作スイッチ



■ 返しぬい / 止めぬいボタン

返しぬい機能（直線ぬい / ジグザグぬい）
ボタンを押している間は返しぬいし続けます。

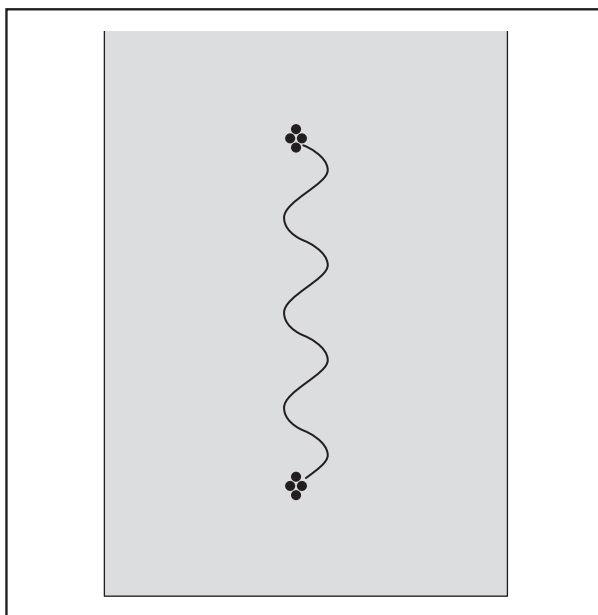


止めぬい機能（直線ぬい / ジグザグぬい以外）

直線とジグザグぬい以外の模様を選択すると、しっかりぬい終わるように数針止めぬいをして自動的に止まります。止めぬいボタンを押した時点で、その位置に止めぬいをします。

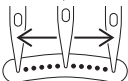
注：ボタンホールぬいでは、止めぬいボタンは機能しません。

※ ぬい始めとぬい終わりではどけないようにするために、この機能はとても便利です。



2. さあぬってみましょう ……

ぬい目長さとぬい目幅早見表

名 称	模 様	ぬい目長さ (mm)		直線ぬい針位置	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
直線ぬい		2.4	0.4 – 4.8	中基線 左基線 - 右基線 * 	
直線伸縮ぬい		2.4	1.4 – 3.0		
点線キルトぬい		2.4	2.0 – 4.0		—
ジグザグぬい		2.0	0 – 3.0	5.0	0 – 6.0
伸縮まつりぬい		2.0	1.0 – 3.0	3.0	2.0 – 7.0
点線ジグザグぬい		1.4	0 – 2.4	6.0	2.5 – 6.0
まつりぬい		2.0	1.0 – 3.0	3.0	0.5 – 6.0
スター模様		3.0	—	5.0	5.0, 6.0
オーバーロックぬい		2.4	1.4 – 3.0	5.5	3.5 – 7.0
スカラップ模様		0.2	0.2 – 1.4	7.0	3.5 – 7.0
長いスカラップ模様		0.4	0.4 – 1.4	7.0	3.5 – 7.0
フェザーぬい		2.0	1.0 – 3.0	6.0	3.0 – 6.0
ジグザグ伸縮ぬい		2.4	1.4 – 3.0	5.0	2.0 – 6.0
ピンステッチ		2.4	1.4 – 3.0	5.0	1.0 – 7.0
リーフ		2.0	1.4 – 2.4	7.0	3.5, 7.0

名 称	模 様	ぬい目長さ (mm)		直線ぬい針位置	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
サーフ (波)		1.8	0.8 – 2.4	7.0	3.5, 7.0
スモッキングぬい		2.0	1.4 – 3.0	6.0	3.0 – 6.0
はぎ合せぬい		2.4	1.4 – 3.0	5.0	2.0 – 7.0
ボックスぬい		2.4	1.4 – 3.0	5.0	1.0 – 7.0
パインリーフぬい		2.0	1.0 – 3.0	5.0	0.5 – 7.0
ブランケットぬい		2.4	1.4 – 3.0	7.0	0.5 – 7.0
ボタン付け		–	–	3.0	2.0 – 4.5
ボタンホール (小)		0.4	0.4, 0.6, 0.8	5.5	–
ボタンホール (大)		0.4	0.4, 0.6, 0.8	3.5	–

直線ぬい

■ 直線ぬいはミシンぬいの基本ですので、試しぬいをして正しい使いかたをよく覚えましょう。

1. ミシンのセット

押え「標準押え」 上糸調子ダイヤル「標準」

- A. 上糸調子ダイヤル
- B. 返しぬいボタン
- C. 押え上げ
- D. ぬい目長さ調節ボタン
- E. ジグザグふり幅 / 針位置調節ボタン

2. 上糸を押えの下から向こう側へ10cmほど引き出します。

3. 布を押えの下に入れ、押えを下げます。

4. プーリーを手前に回して、針を布に落とします。

5. フットコントローラーを踏んでぬい始めます。
ぬっている間は、ミシンの布送りに合わせて、軽く手で導いてください。

※ 布端をぬう場合は、上糸と下糸を後方へ少し引っ張りながらぬい始めます。

注：糸締りが強い場合、上糸調子ダイヤルをやや弱めにしてください。

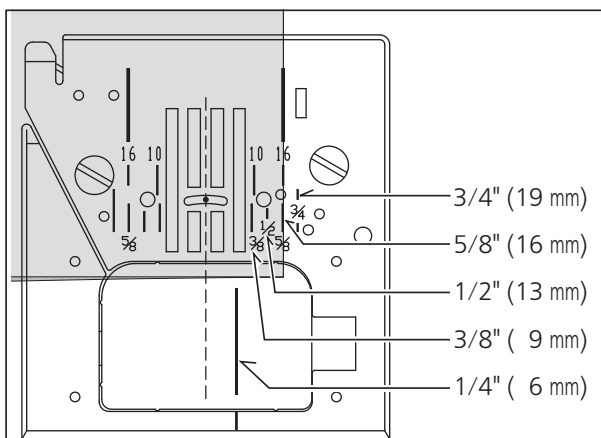
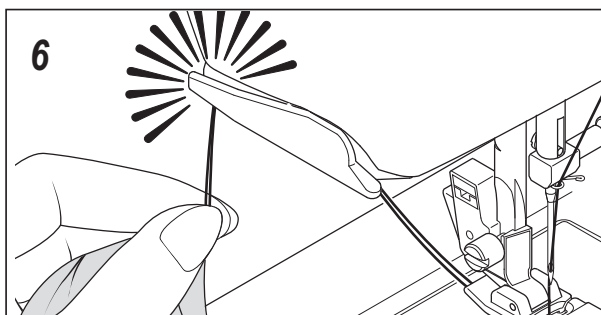
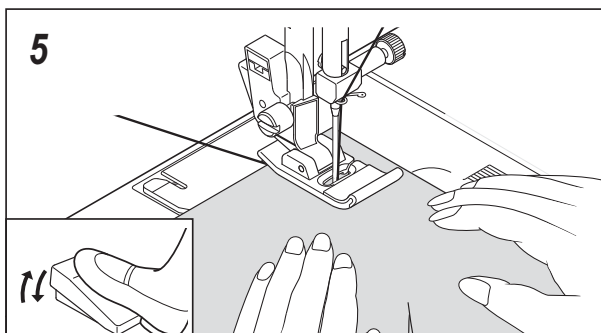
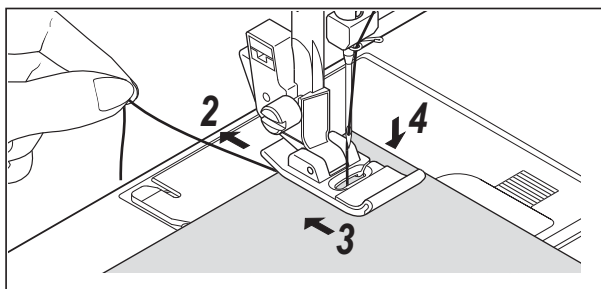
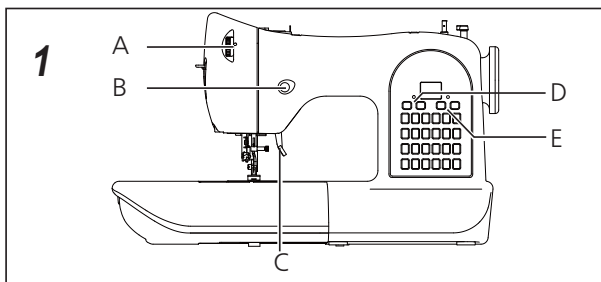
6. 針と押えを上げ、布地をうしろへ引き出し、糸切りで糸を切ります。

■ ぬい目をまっすぐにするために

ぬい目をまっすぐにするために数字付きの線を使用してください。

中基線から測った距離がそれぞれ示されています。

これらの線にあわせてぬうと、一定の幅できれいにぬえます。ポピンカバーの線は6mmの線で、細いぬいしろにするときに便利です。

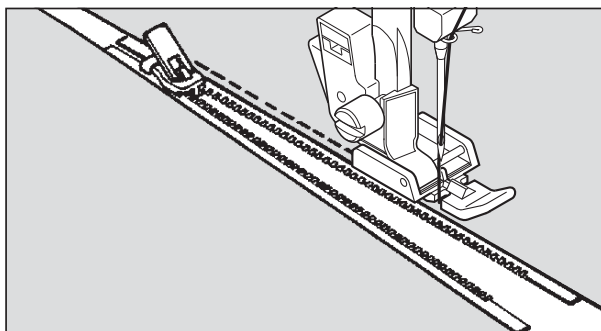
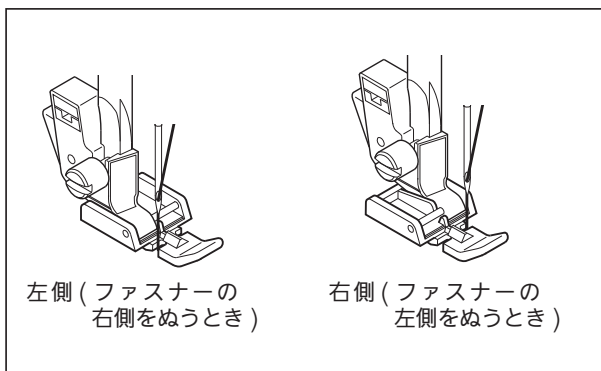


■ ファスナーつけ

ミシンのセット
ぬい模様「直線ぬい・中基線」
押え「ファスナー押え」

ファスナーの右側をぬうときは、押えホルダーを押えの左側のピンに取り付けてぬいます。

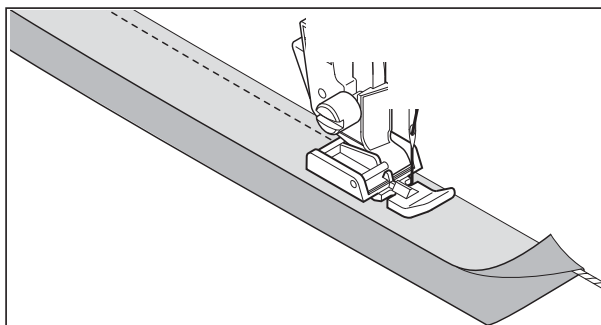
左側をぬうときは、押えホルダーを押えの右側のピンに取り付けてぬいます。



■ パイピング

ミシンのセット
ぬい模様「直線ぬい・中基線」
押え「ファスナー押え」

バイアステープを外表に折るか、バイアステープでコードをくるみ、押えホルダーをファスナー押えの右側に取り付けて図のようにぬいます。



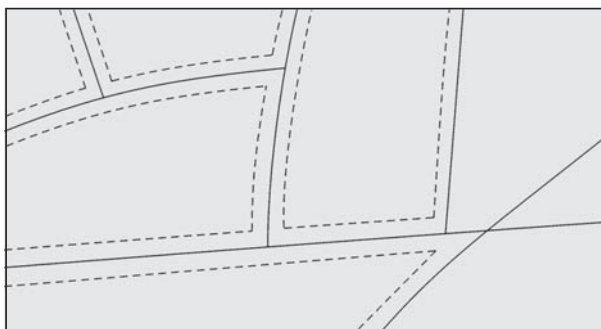
手ぬい風キルトステッチ

押え「標準押え」

■ このぬいでは下糸が布表面に引き上げられ、手ぬい風の直線ぬいが出来ますので、ステッチぬいやキルトぬいに使えます。

1. 下糸はキルトに合った色の糸を使います。
2. 上糸はぬい目の目立たない細い糸を使います。
3. 下糸が表面に引っ張り出されるように上糸調子を少し強くします。
4. ぬい始めます。

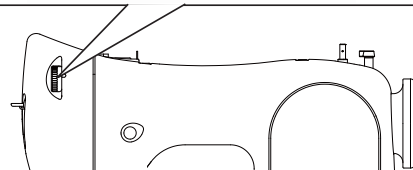
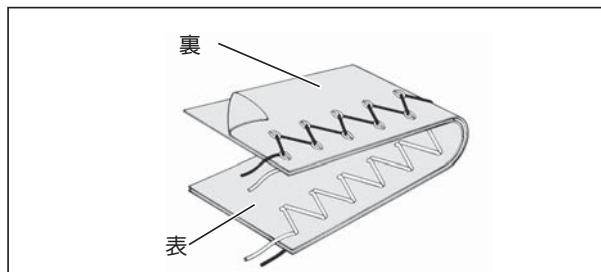
注：使用される布切れで試しぬいをして、最適の糸調子とぬい目長さを選択します。



ジグザグぬい

■ ミシンのセット

押え「標準押え」 上糸調子ダイヤル「標準」



■ ぬい目長さ及びジグザグふり幅

ぬい目長さ、ジグザグふり幅は右の表を参考に設定してください。

 は基本設定（自動）値。
ぬい目長さ 2.0 mm、ジグザグふり幅 5.0 mm

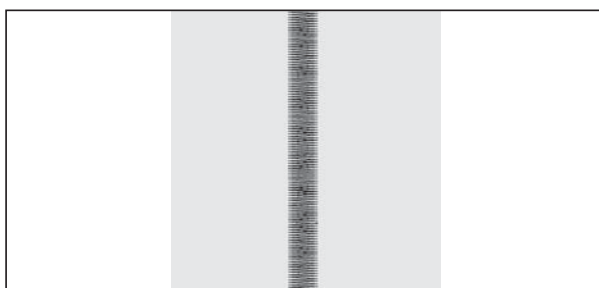
 は微調整（手動）設定時の選択範囲です。
ぬい目長さ 0 ～ 3.0 mm、ジグザグふり幅 0 ～ 6.0 mm

	mm	0	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0
 ぬい目長さ	0													
	0.25													
	0.5													
	0.75													
	1.0													
	1.25													
	1.5													
	1.75													
	2.0													
	2.5													
3.0														

サテステッチ（密着ぬい）

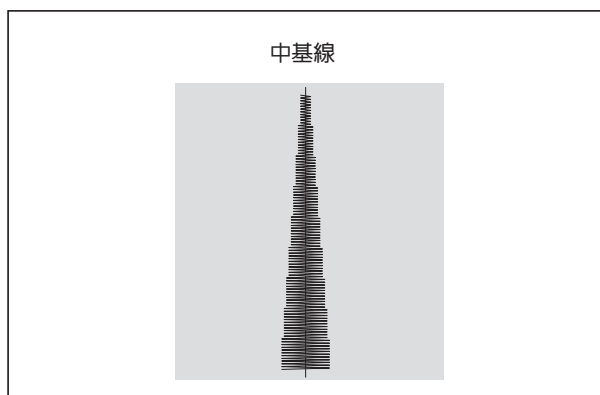
ぬい目長さを「0.5mm」ぐらいにセットすると、目のつまったきれいなぬい目出来ます。

注：布の種類によっては、送り詰りする場合があります。
その場合はぬい目長さを少し大きくしてください。



ふり幅の変化

ぬっているあいだにジグザグふり幅レバーを変化させると、図のようにぬい幅を変化させることが出来ます。



まつりぬい・伸縮まつりぬい

■ ミシンのセット

押え 「まつりぬい押え」
上糸調子ダイヤル「標準」

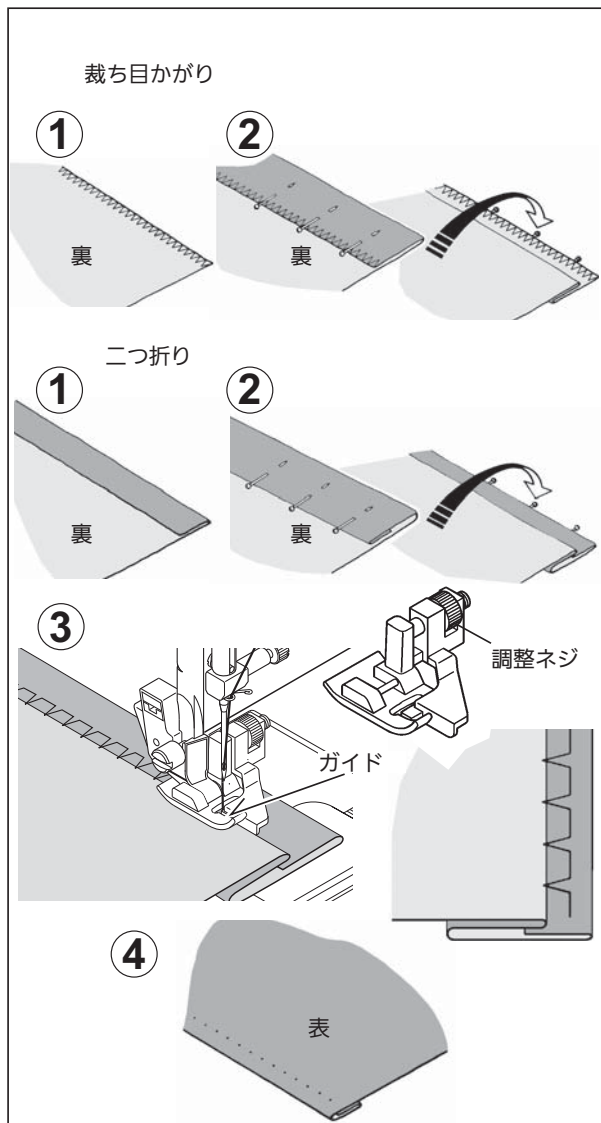
-  ー 普通に適しています。
-  ー 伸縮性の布地に適しています。

1. 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。
2. 出来上り線に沿って布を折り、折り山から約7～8mm入ったところからすそに向かって、図のように待ち針で留めます。待ち針を持って折り返します。

3. 布の折り山が押えのガイドに沿う様に布をおき、調節ネジをまわし、針が左に振れたとき、針が折り山をわずかに刺すようにぬっていきます。

待ち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。

4. 布を表に開くとできあがりです。



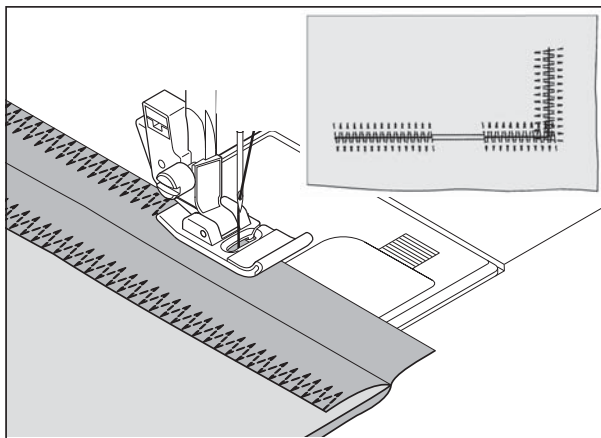
点線ジグザグぬい

■ ミシンのセット

押え「標準押え」 上糸調子ダイヤル「標準」

■ つくろいぬい

布の裂け目をつくろうには、裂け目を針の下に置き、針が裂け目の両側を拾うようにぬいます。裂け目の角は、両側から角の中心に向かってぬいます。裂け目の下に布をあててぬうと丈夫につくろえます。



スーパーぬい（ストレッチステッチ）

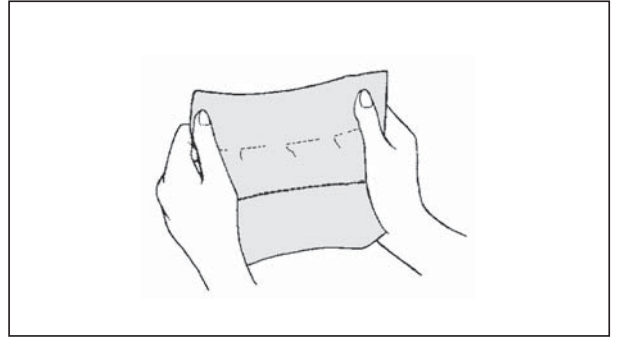
■ ミシンのセット

押え「標準押え」 上糸調子ダイヤル「標準」

直線伸縮ぬい



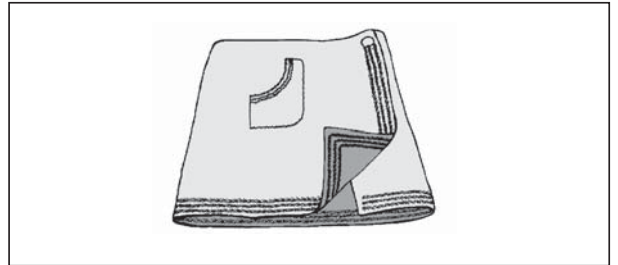
- 図のように布地をひっぱると、普通のぬいでは糸が切れますが、伸縮ぬいはぬい目が伸び縮みして糸が切れません。



ジグザグ伸縮ぬい



- ぬい目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています

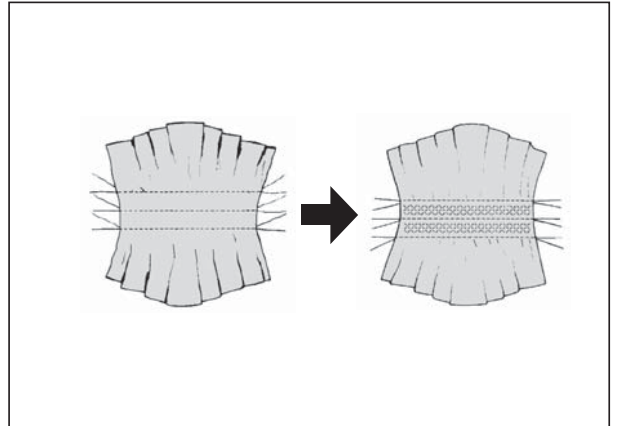


スモッキングぬい



1. 上糸調子を弱くして、1センチ位の間隔を開けて直線ぬいをしてください。
2. 下糸だけを引っ張ってギャザーを寄せ、上糸と下糸を結んでギャザーを固定します。
3. 直線ぬいの間をスモッキングぬいします。直線ぬいの糸をほどきます。

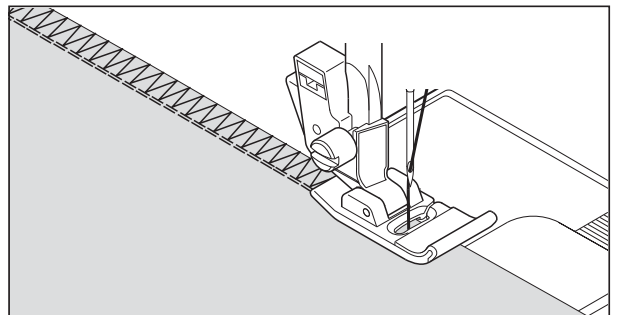
ヨーク、ベビー服、幼児のドレス、ランジェリー、タック押えに最適です。



オーバーロックぬい

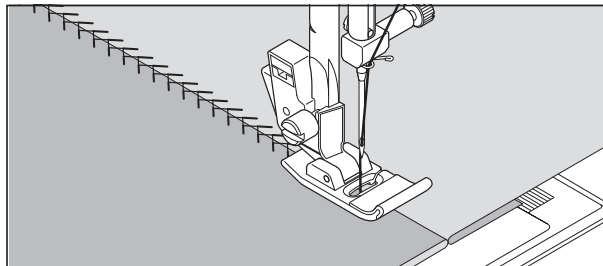


- 地ぬいと裁ち目かがりを一度にし、又伸縮性があるので、ブラウス地や綿ジャージ、ぬい代の仕上げを始めとし、小物、手芸品などの飾りぬいに最適です。



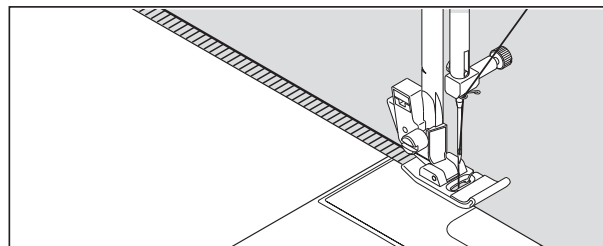
フェザーぬい

- レースのぬい付け、ニットやトリコットの付き合わせはぎ、ファゴティング、飾りぬいに適しています。



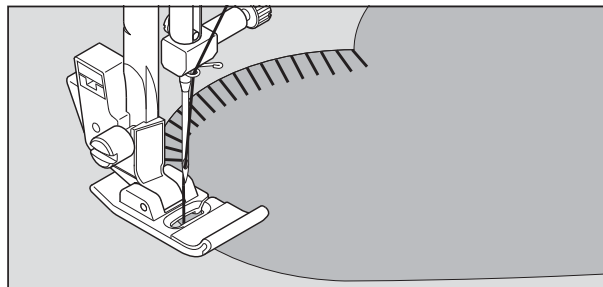
ピンステッチ

- アップリケに適しています。



ブランケットぬい

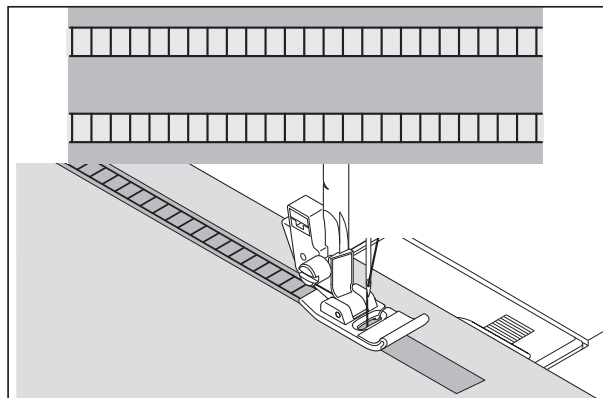
- 装飾性と実用性を兼ねそなえているので、テーブルクロス、ナプキン等のぬいしろ、折り代の始末をするのに適しています。



ボックスぬい

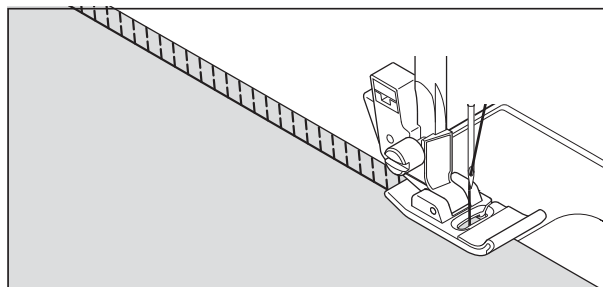
- 反対色または類似色の薄いテープを押えの下においてぬい付けると、特別の飾り効果が得られます。
- 織りの粗い布を使い、図のように約4mmの間隔を置いて布の織り糸を抜き取ります。

布の中心をこのステッチでぬうとドロンワークが出来上がります。



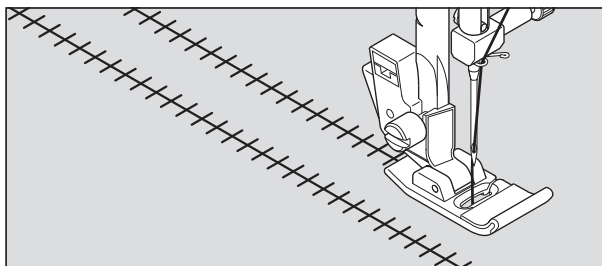
パインリーフぬい

- ぬい目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。



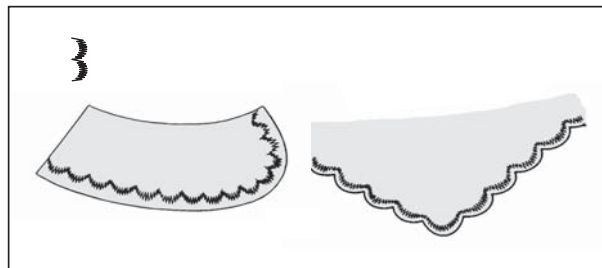
はぎ合せぬい

- レースのぬい付け、ニットやトリコットの突合せはぎ、ファゴティング、飾りぬいに適しています。



飾りぬい

- ミシンのセット
押え「サテン押え」 上糸調子ダイヤル「標準」
- ※ 使用される布切れで試しぬいをされることをおすすめます。
- ※ ぬい途中に糸がなくなること避けるために、ボビンと糸ごまに十分な糸があることを確認してからぬい始めてください。



飾りぬいのアイデア

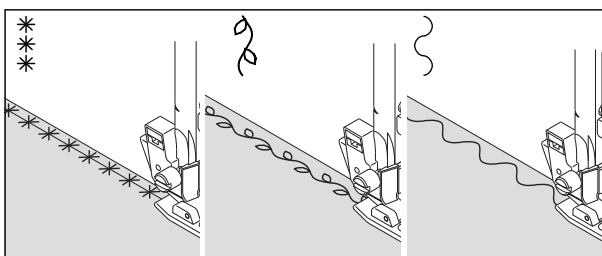
スカラップ模様

婦人服や子供服のそでやえり等の縁飾りとして、また端の始末などに利用できます。

端の始末をする場合は、布端をこの模様でぬった後、模様に沿って布地を切り取ります。この際ぬい目の糸を切らないように注意します。

連続模様

- ミシンのセット
押え「標準押え」 上糸調子ダイヤル「標準」
- 連続模様ぬいに最適な模様です。
お好みに応じてご使用ください。



スター模様 をぬう際の注意

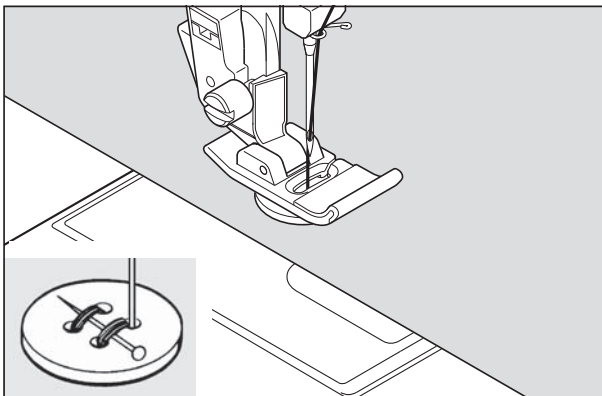
- ※ この模様はジーンズ等の厚手の布地に適しています。
- ※ 比較的薄い布地の場合は、布地の下に和紙、接着芯などを敷いてください。

ボタン付け (一)

- ミシンのセット
押え「ボタン付け押え」 上糸調子ダイヤル「標準」
送り歯調節レバー 

注：速度は低速に設定してください。

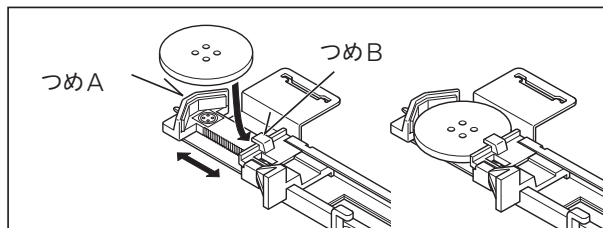
- 布のボタンを取り付ける位置にボタンを置き、押えを下ろします。プーリーを回し、左右のボタン穴に針が落ちるか確認します。必要ならば幅を微調整します。開始・停止スイッチを押して10針ぐらいぬい、返しぬい / 止めぬいボタンを押して止めぬいをします。ボタン足を付ける時は、ボタンの中央に待ち針をのせてぬい、上糸の両端をボタンの下に引き出し、ボタン足に巻きつけます。



ボタンホール（ボタン穴かがり）

■ ボタンホール押えの使いかた

1. つめAとつまBの間にボタンをはさみます。
2. ボタンの大きさに応じたボタンホールができます。



■ ぬい始めのセット・ぬいかた

※ 伸縮性のある布地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を貼ってください。

※ 使用される布切れで試しぬいをされることをおすすめします。

1. 模様選択ボタンで「、

2. 押えをボタンホール押えに交換してください。

3. ボタンホール押えに使用するボタンを取り付けます。
(上記のボタンホール押えの使いかた参照)

4. ストッパー (A)、(B) の間にボタンホールレバー (C) が垂直に下りるようにしてください。

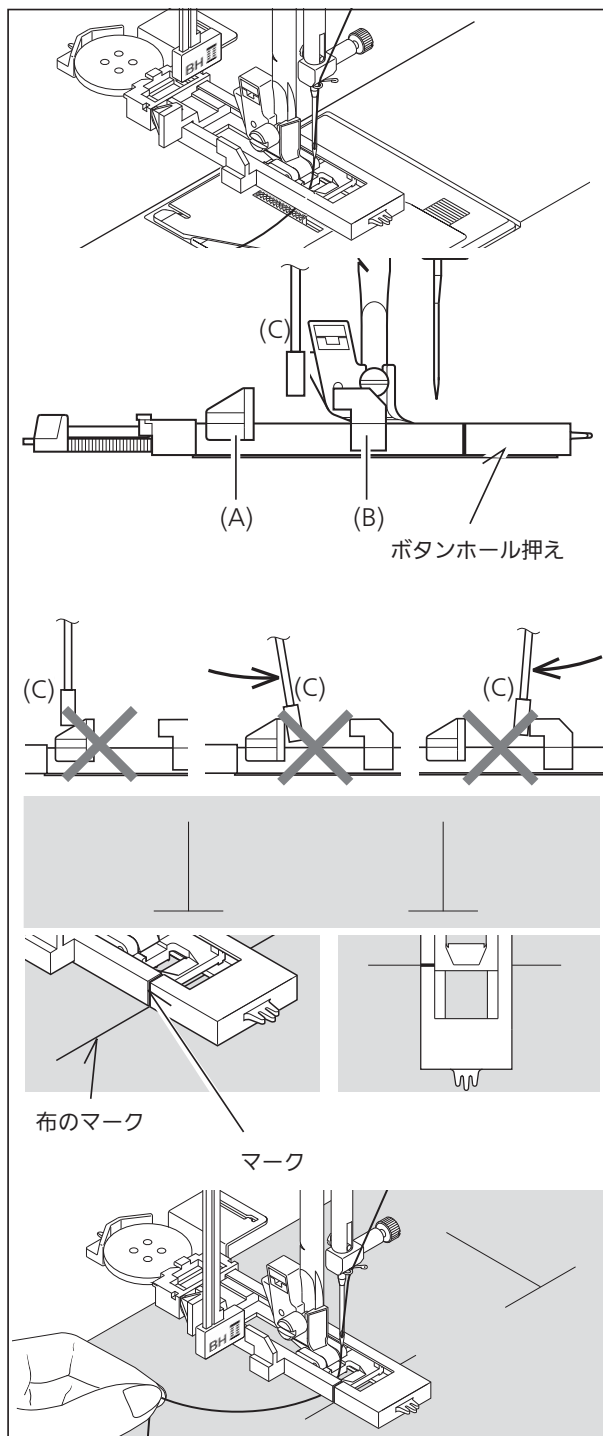
※ ボタンホールレバー (C) が途中までしか下りていない場合は、ミシンは作動しません。

5. 布地の穴かがりをする位置にマークをつけます。

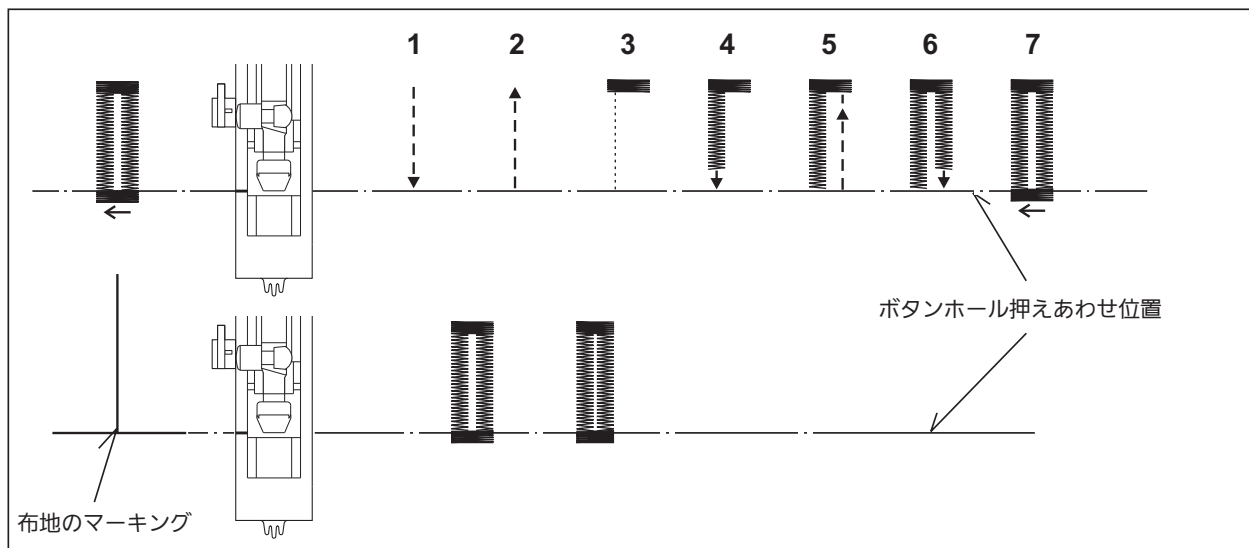
6. 布地を押えの下に入れます。

7. 布地のマークとボタンホール押えのマークを合わせて、ボタンホール押えを下ろします。

8. 上糸を持って、ミシンをスタートさせます。



■ 下記の順に自動的にぬいあがり、最後に数針止めぬいをしてとめます。(布に印をつけたボタンホールあわせ位置より少し余裕をもってぬいあがりますので、試しぬいをおすすめします。)



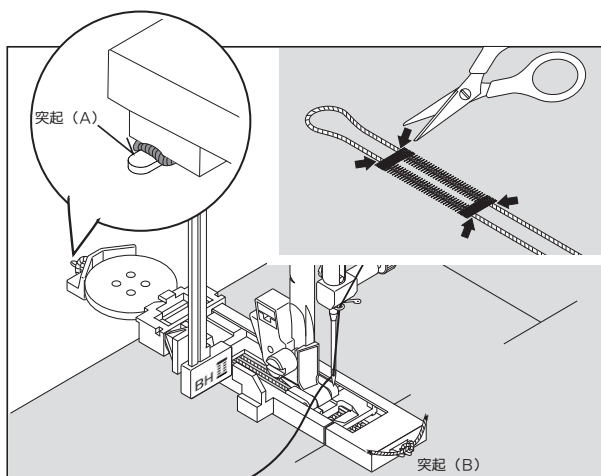
9. ぬい終わったらシームリッパーで中央の布地を切り開きます。その際、ぬい糸を切らないように注意してください。



■ 芯入りボタンホール

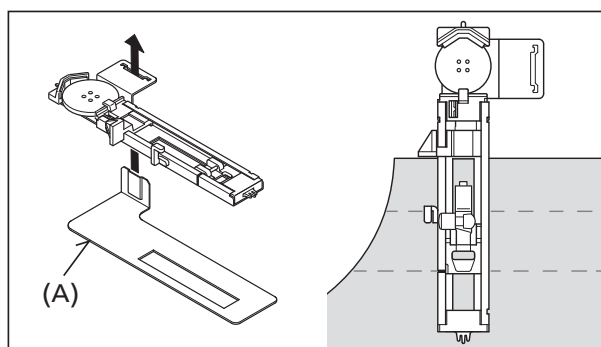
■ 芯糸を入れてぬうと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使います。

1. 芯糸をボタンホール押えのうしろの突起 (A) に引っかけて、押えの下を通して前の突起 (B) に結び付けます。
2. このまま押えを取り付けて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールができます。
3. ぬい終わったら芯糸を押えからはずし、余分な糸を切り取ります。



■ 厚物へのボタンホールぬい

厚物や布が重なった衣類の端にボタンホールぬいをする際は、きれいにぬうために図のようにボタンホール押えの下にアンダープレート (A) を取り付けます。布はアンダープレート (A) とボタンホール押えの間に入れます。



3. ミシンのお手入れ……

ミシンを長もちさせるためには、日常の手入れが大切です。

送り歯とかまの掃除

ボビンケースやかまに糸がからんだ場合又は、ボビンケースの位置がずれた場合も、次の順序で行ってください。



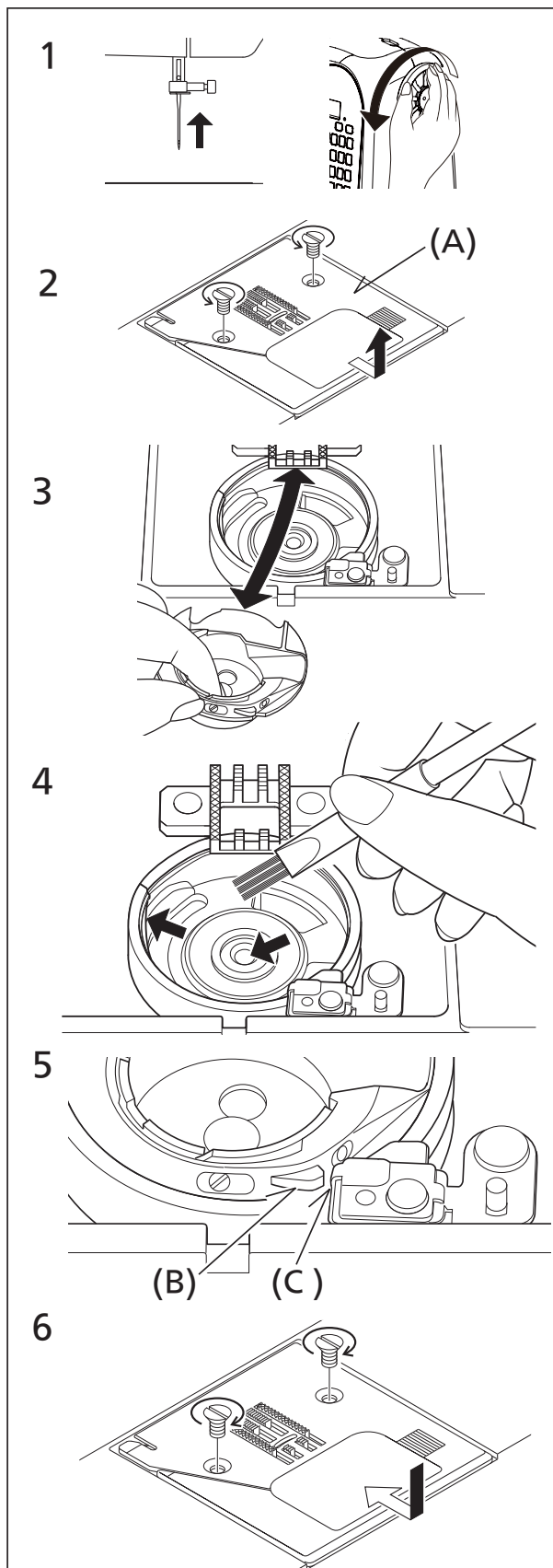
安全のために必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガの原因になります。

1. プーリーを手前に回し、針を最上点に上げて、押えを外します。
2. 針板のネジを付属の針板用ネジ回しで外し、針板（A）を図のように手前にスライドさせて外します。
3. ボビンケースを図のように抜き取ります。

4. かま内部、周辺および送り歯のほこりをブラシできれいに取り除きます。みぞの隅のほこりが取れにくい時は爪楊枝でかまに傷をつけないようにして取り除きます。矢印の部分にミシン油を一滴差します。

注：差しすぎた場合には、きれいにふき取ってから、ボビンケースをかまに入れてください。

5. ボビンケースの突起部（B）がストッパー（C）の左側にくるようにかまに入れます。
6. 針板の送り歯を入れる穴と送り歯の位置を合わせ、手前からスライドさせて針板を取り付けます。

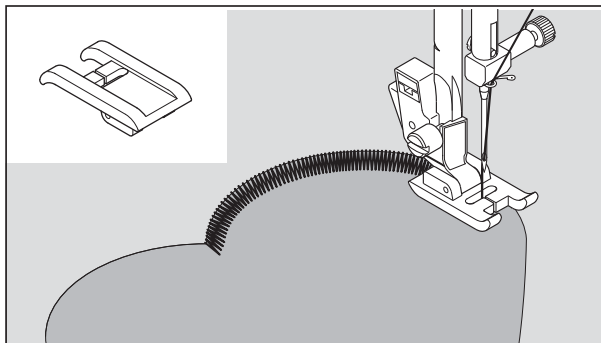


4. その他の情報

サテン押え

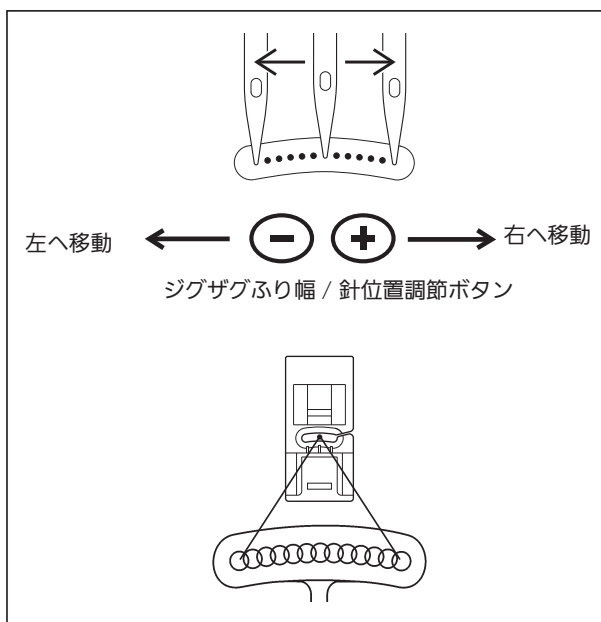
サテン押えは目のつまったぬい模様をスムーズに送るためにみぞがついている押えです。伸縮ぬいをするときの押えとしても使えます。

目のつまったジグザグ模様をサテンぬいと呼びます。アップリケを付けるときに便利です。薄いものをぬうときはしわを防ぐために、下に薄い紙や接着シートと一緒にぬってください。



直線ぬいの針位置

直線ぬいは右のイラストのように 13 種の基線が選択できます。

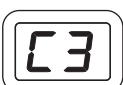
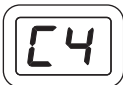


5. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう ……

こんな時には	原 因	対 処	参 照 ページ
ミシンが 回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押します。	7
	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	5
	電源スイッチが“OFF”の位置にある。	スイッチを“ON”の位置にセットします。	5
	通常ぬいの時、ボタンホールレバーが上がっていない。	ボタンホールレバーを上げます。	24
	ボタンホールぬいの時、ボタンホールレバーが下がっていない。	ボタンホールレバーを下げます。	24
上糸がかまにか らまってミシン が回らない	上糸をすこしゆるめ、プーリーを手前に回して糸を引き上げます。		—
	かまにからまっている糸をはさみで切って取り除きます。		—
回転が重い 音が高い	ボビンケースの位置がずれている。	正しい位置にセットします。	26
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	26
布を送らない	針が曲っている、先がつぶれている	新しい針と取り換えます。	11
	押えを下ろしていない。	押え上げを下ろして、押えを下げます。	—
ぬい目とぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	11
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	11
	針が針棒の一番奥まで入っていない。	正しくセットし直します。	11
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	12
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	9
	糸くずがかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	26
針が折れる	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	—
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	11
	針が針棒の一番奥まで入っていない。	正しくセットし直します。	11
	押えが正しく取り付けられていない。	押え止めネジを締め直します。	—
糸が 布と針板の間で だんごになる	ぬい始めに上糸を向こう側に引き出していない。	常に上糸を押えの下から向こう側へ10cmほど引き出します。	—
	上糸調子が適切でない。	上糸調子の確認をします。	9
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	9
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	12
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	11
	針が曲がっている。	新しい針と取り換えます。	11
下糸が切れる	ボビンケースの糸の通しかたが間違っている。	正しくセットし直します。	8
	糸くずがボビンケースやかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	26
ぬい物に しわがよる	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	12
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	11
	薄物に対してぬい目が大きい。	ぬい目を小さくします。	—

液晶表示メッセージ

ミシン操作中にエラー等が発生すると、液晶表示窓にメッセージが表示されます。
どのようなメッセージがあり、それにどのように対処すべきかは次の通りです。

液晶表示	原因 → 対処
	1. ぬっている最中に下糸巻き軸を右（糸巻き位置）に移動しました。 → 下糸巻き軸を左に戻します 2. 下糸巻きをしているときに返しぬいボタンが押されました。 → 下糸巻きのときに返しぬいボタンを押さないでください。
	1. ボタンホールレバーの位置が正しくありません。 → ボタンホールをぬうときはレバーを下げてください。 → 模様をぬうときはレバーを上げてください。 → レバーをストッパーの間に垂直に下がるように下げます。
	1. フットコントローラー以外のものがソケットに検知されました。 → ソケットから異物を取り除いてください。 2. フットコントローラーが接続または切断されています。 → これはエラーメッセージではありません。数秒で消えます。 → ソケットから外れている場合はフットコントローラーをとりつけてください。
	1. かまに糸が絡んだりミシンの回転が強制的に停止されたため、ミシンが停止しました。 → 電源を切り、原因を取り除いてください。
	1. 返しぬい / 止めぬいできない模様を選択して、返しぬいボタンを押しました。 → 返しぬい / 止めぬいできない模様を選択したときに押してください。
	1. 上糸が切れるか外れました。 → 押え上げを上げてください。糸を最初からかけ直してください。
	1. 押えを下げる前にフットコントローラーを踏みました。 → 押えを下げてから、ミシンをスタートしてください。

システムエラー

システムエラーの場合は、ぬい模様ボタンが全点滅します。
システムエラーは E1. E2.E6.E7 で表示されます。

→ 電源を入れ直してください。

エラー番号が消えない場合、購入店もしくは弊社「お客様相談係」にお問い合わせください。

6. 修理・保証について

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
- 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
- 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーマシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「お客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越しください。

株式会社 シンガーハッピージャパン

「お客様相談係」

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
TEL. 03-3837-1862 FAX. 03-3837-0072

＊ 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。

＊ シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「お客様相談係」におたずねください。

●無料修理保証について

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から 1 年間）内に故障した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 無料修理保証をお受けいただくときは、ミシンを購入店へご持参またはご相談ください。

●無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「使用の手びき」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災等、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入後の移動または輸送によって、不調、故障または損傷したとき。
4. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
6. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
7. この保証書のご提示がなかったとき。
8. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
9. この保証書の字句の訂正または書き換え等をしたとき。
10. この保証書は日本国内に限り有効といたします。

●有料修理について

1. 上記の 1. ～ 10. に該当する場合、その他有料で修理をするときの費用は、別に定める必要部品代、出張費および技術料の合計額といたします。
2. 無料修理期間中にお客様のご依頼によって販売店が出張修理する場合は、別に定める出張費をいただきます。

●お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問い合わせください。
2. 「使用の手びき」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

⚠ 警告 感電、火災の恐れがあります



禁 止

このミシンは国内専用です。
一般家庭用交流電源 100 V 以外の電圧では
使用しないでください。
異なる電圧で使用すると火災・感電の原因と
なります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでく
ださい。
感電やけがの原因になります。



プラグを抜く

以下のような時は電源スイッチを切り、電源
プラグを引き抜いてください。プラグを差し
込んだままにしておくと、思わぬ火災や感電
の原因となることがあります。

- ・ミシンのそばを離れる時
- ・ミシンを使用しない時
- ・ミシンのお手入れをする時
- ・ミシンを移動させる時
- ・ミシン使用中に停電した時



プラグを抜く

コンセントから抜く時は、コードを持たず
に必ずプラグを手で持って抜いてください。
コードを引っ張ると内部で断線し、感電や発
火につながる恐れがありますので大変危険
です。



禁 止

電源コードは無理に曲げたり、引っ張ったり、
ねじったり、何かに巻きつけたりしないでく
ださい。また、コードが重いものの下敷きに
ならないようにしてください。コードが内部
で断線したり破損して、火災・感電の原因に
なります。



水ぬれ禁止

ミシン、電源コード、電源プラグ等を水につ
けたり濡らしたりしないでください。
ぬれた布やぞうきんでミシンを拭かないでく
ださい。
スプレー状のクリーナーなどをミシンに直接
噴霧しないでください。
浴室や加湿器のそばなど水がかかるような場
所や湿気の多い場所での使用や保管はしない
でください。
火災・感電の原因となりますので、万一濡れ
た場合は絶対に使用しないでください。



分解禁止

お客様自身での修理、分解、改造はしないで
ください。
火災・感電・けがの原因になります。
修理が必要な場合は、お買い上げの販売店か
販売元までご相談ください。



禁 止

ミシンの内部に金属類や燃えやすいものなど
の異物や水分を差し込んだり、落とし込んだ
りしないでください。
火災・感電の原因となりますので、特にお子
様のいるご家庭ではご注意ください。



禁 止

ミシンの上に乗らないでください。
倒れたりこわれたりしてけがの原因となるこ
とがありますので、特に小さなお子様のいる
ご家庭ではご注意ください。



禁 止

ミシンを極端に傾けたり、前後左右に激しく
動かさないでください。感電や故障の原因に
なります。



禁 止

ほこりの多いところで使用しないでくださ
い。電源プラグの刃や刃の取付面にほこりが
付いている時は、乾いた布でふき取ってくだ
さい。そのまま差し込むと火災の原因になり
ます。



禁 止

ミシンをぐらついた台の上や傾いた所などの
不安定な場所に置かないでください。また、
毛布やクッションなどの柔らかいものの上
にも置かないでください。落ちたり倒れたりし
て、けがや火災の原因になります。



注 意

ミシンを操作中にネクタイ・ネックレス・髪
などを針周辺に引き込まれないようにしてく
ださい。万一引き込まれてしまった場合は、
ただちに電源を切って取り除いてください。



禁 止

ミシンの通風孔をふさがないでください。
内部に熱がこもり、火災の原因となることが
あります。



禁 止

雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない
でください。
感電の原因になります。